

令和元年6月19日（水曜日）

第2回松島町議会定例会会議録

（第4日目）

令和元年第2回松島町議会定例会会議録（第4号）

---

出席議員（14名）

1番	杉原	崇	君	2番	櫻井	靖	君
3番	緑山	市朗	君	4番	赤間	幸夫	君
5番	高橋	利典	君	6番	片山	正弘	君
7番	澁谷	秀夫	君	8番	今野	章	君
9番	太齋	雅一	君	10番	後藤	良郎	君
11番	菅野	良雄	君	12番	高橋	幸彦	君
13番	色川	晴夫	君	14番	阿部	幸夫	君

---

欠席議員（なし）

---

説明のため出席した者

町長	櫻井	公一	君
副町長	熊谷	清一	君
総務課長	千葉	繁雄	君
財務課長	佐藤	進	君
企画調整課長	佐々木	敏正	君
町民福祉課長	太田	雄	君
健康長寿課長	齊藤	恵美子	君
産業観光課長	安土	哲	君
建設課長	赤間	春夫	君
会計管理者兼会計課長	鷹平	義弘	君
水道事業所長	岩淵	茂樹	君
危機管理監	蜂谷	文也	君
子育て支援対策監	本間	澄江	君
総務課総務管理班長	櫻井	和也	君
教育長	内海	俊行	君
教育次長	児玉	藤子	君

教 育 課 長	赤 間 隆 之 君
選挙管理委員会事務局長	伊 藤 政 宏 君
代 表 監 査 委 員	丹 野 和 男 君

---

事務局職員出席者

事 務 局 長 千 葉 義 行 主 査 菊 地 磯 子

---

議 事 日 程 (第 4 号)

令和元年6月19日(水曜日) 午前10時 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

〃 第2 一般質問

〃 第3 委員会の閉会中の継続審査・調査について

---

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

午前10時00分 開 議

○議長（阿部幸夫君） 皆さん、おはようございます。

令和元年第2回松島町議会定例会を再開します。

本日の会議を開きます。

傍聴の申し出がありますので、お知らせします。 ██████████ さんです。

本日の議事日程は、お手元に配付しております。

---

---

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（阿部幸夫君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、8番今野 章議員、9番太齋雅一議員を指名します。

---

---

日程第2 一般質問

○議長（阿部幸夫君） 日程第2、一般質問に入ります

通告の順序に従いまして質問を許します。

質問者は登壇の上、質問願います。

12番高橋幸彦議員、登壇の上、質問願います。

〔12番 高橋幸彦君 登壇〕

○12番（高橋幸彦君） おはようございます。12番高橋でございます。通告に従いまして質問させていただきます。

始める前に通告の中で資料を要求したんですが、立派な資料をいただきまして大変質問するのに都合がいい資料じゃないかなと思っております。実はきょう19日の10時から観光協会の常務理事会があります。それから午後には理事会があって、26日の観光協会の総会の資料等で、きょう出してもらった資料等も出てくるんじゃないかなとは思っております。それでこれに関連した質問を3月の議会でも質問しようと思っていたところでありました。

といいますのは、ことしの場合は天皇陛下の退位と元号の改元ですね、それで10連休ということで、海岸の観光業者さんのほうから10連休で松島の渋滞のほうは大丈夫なのかというような声が、それこそ3月議会前からちょっと聞いてましたので、それを一般質問にしようかなと思ったんですが、総括等もありましたので、ちょっと準備不足でできなかったんですが、担当課長と班長には質問できないけれどもということで聞いたんですけども、そのときの話では、ことしは10連休で余りにも長いし、下手すると国内じゃなくて海外のほうが多いんじ

やないかなというような予測もありますけれども、とりあえずは普通どおりのゴールデンウイークの渋滞とか対応、それをやるという担当課長とか班長からの回答は得たんですけども、それにしてもあれですね、渋滞予報、NEXCOなんかが発表した渋滞予報が、ことしはちょっと外れたんじゃないかなと思うんです。何か2回ぐらいのピークかなと思ったら3回ぐらいとか4回ぐらい、いろいろ小さくなって外れたんじゃないかなと。それで一応松島町の対応は大丈夫だという話だったんですけども、聞くところによるとちょっとゴールデンウイーク、思ったより来たんじゃないかなという話も聞いてますので、まずことしのゴールデンウイークのことについてちょっと聞きたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（阿部幸夫君） 安土産業観光課長。

○産業観光課長（安土 哲君） 今、議員お話しありましたとおおり10連休ということで、一月前当たりからは観光協会と松島公園管理事務所、松島町と3者で打ち合わせ、対応の打ち合わせを行っておりました。まず、来ていただくお客様に駐車場、無料駐車場・有料駐車場合わせてどちらにあるかというのを周知をしよう。あと、警備員の配置もごさいます。5月3日から5日にかけて、もう大変なお客様、最初の日だけ雨だったんですけども、あとは大変なお客様の数がお越しになりましたが、これといったトラブルはなく、皆様大変な中、観光事業者の皆さんにご対応いただいたと思っております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） 何もなかったということで、まずはよかったんですけども、質問要旨の中にもありましたけれども、やっぱり昨年の落慶法要に向けて歩道の拡幅ですね、国道で国の事業だから国のやった仕事とはいえ、町から町長の強い要請があったんで使用するには支障ないぐらいのことで目に見えてふえてきてるんじゃないかなと思っております。それで今回の私の観光事業での活性化は今がチャンスだというようなことにつながるんじゃないかなと思っておりますので、その点町長、もし何か所見あれば、よろしくお願ひします。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 今ゴールデンウイークのこと聞かれましたけれども、昨年、ちょうど今から1年ぐらいにもうなりますけれども、瑞巖寺の落慶法要があったということで、その落慶法要に向けた観光地としての整備をお願いしたというのは28年度、29年度、ここでまずは海岸の中央広場を中心に整備を完了してほしいということで公園管理事務所、それから国道の管理者側のほうにいろいろお願ひをして歩いて、県のほうでその事業をやっている工事業者さん等の工程会議等も開いていただいて調整してもらったと。そういったことがあって昨年

の落慶慶祝の、6月の22日の朝だったんですけれども、朝にやっと全てが終わったということで落慶を、無事お祝い行事を迎えられたということでありました。その日が武者行列があったわけでありまして、大変天気もよくて、いろんな意味で発信されて松島の観光地、こんなにきれいになったんだなということで全国に広がったのかなというふうに思っております。歩道も拡幅されて観光に来た方々が散策しながらあそこを歩いているということがたびたび報道されますので、そういったいい意味で松島町は捉えられてお客さんが少しずつふえてきたと。

ですから今資料、求められた資料を提出しておりますけれども、去年の瑞巖寺の落慶以降の数字というのは伸びているというのがわかるかなというふうに思っております。

それにあわせてことしのゴールデンウィーク、10連休ということでありましたけれども、さっき担当課長から事前準備についてはお話しされたかと思っておりますけれども、町とすれば個人的には随分来てくれたなというふうには思っております。これが今後継続するように、また松島町としても、やっぱりグリーン広場、まだ終わっておりませんので、グリーン広場にかかわるところ、それから電柱の無電柱化にするところ、それから丸山さんの工事のところとかいろいろありますので、それらを早く精査して行って、またステップアップして来年のオリンピックの年に向けていきたいと、このようには思っております。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） 丸山さんのは次に聞きますので、またそのときよろしく願います。

それで歩道の拡幅で昨日の今野議員さんのやつでガードレールですか、あと私の後に最後に色川副議長も国道の歩道のガードレールのことを聞くんだと思っておりますけれども、そちらのほうはきのうの建設課長の答弁では、何か業者、それだけのあれでは決まらないってことだったんですけれども、どういう形態、普通のガードレールじゃないでしょうか、前みたいなポール状のとか、そういうのっていうのは考えてるんでしょうか。それもちよっと聞きたいなと思っております。

○議長（阿部幸夫君） 赤間建設課長。

○建設課長（赤間春夫君） ガードレールですけれども、前あったものにつきましてはガードパイプというものでありまして、パイプ状のものが3本、3段になっているものが設置しておりました。今度設置していくものもガードパイプとして設置していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうすると以前あったような焦げ茶といいますかブラウンですか、落ちついたような色になるということでのよろしいわけですね。

○議長（阿部幸夫君） 赤間建設課長。

○建設課長（赤間春夫君） 色は焦げ茶色と考えておりました。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） それでは早期にできるように、歩行者の方、本当に何あるかわからない時代になってますので、早くに設置されることを期待したいと思います。

次に、町長がさっきちょっと言われた水族館跡地の宮城県松島離宮ですか、そちらの起工式、実は私も常任委員長という立場で起工式に呼ばれていたんですが、ちょっと身内で不幸ありまして参加できかねて、そのときに町長初め知事、それから丸山の社長等々の挨拶があったと思うんですが、ちょっと参加できなかったものですから、町長のほうからもし、主なあれで結構ですので、そのときの様子をちょっとお知らせ願いたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 起工式での佐藤社長のコメントということでございますけれども、水族館を含めた周辺は憩いの場としてこれまで役割を果たしてきたと、水族館の思い出を大切に今後国際的な施設にしていきたいという熱い思いを述べられていたというふう感じ取っております。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） わかりました。町長と知事のはありきたりといいますか、そんなにはあれでもなかったんですか。ご挨拶のほうは。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 知事の祝辞にしても私の祝辞にしても、いいものが早くできますようにということで、また水族館にかわるものが新たにここに施設としてできて、松島の一つの観光の目玉、目玉というか観光の拠点となればということでおのおのお話しされていたのかなというふうには思っております。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうですね、ちょっと着工するまでいろいろありまして時間がかかったんですが、やっぱり早期にやって、本当にこの起工式、それから後に聞きます松島海岸駅のバリアフリーとか松島絡みの記事が、河北さんなんです、私河北新報ですけどけれども、

それに上がってるんで、やっぱり「松島」という、「松島町」という活字が出るたびに私の目もいきますし、やっぱり一般の読者の方も目がいくんじゃないかなということであんな質問になったんですけれども、やはりそういう機会をどんどんふやしていくことが観光客、やっとなら、震災前まではまだいかなかったですけれども、300万人ですか、いただいた統計で300万人を超えましたので、ぜひ最低でも震災前の数字になるように努力していただきたいなと思っております。

次に松島海岸駅のバリアフリーの整備事業のことなんですが、あと、きょう私の後に緑山議員さん、それから最後に色川副議長さん、色川副議長さんのほうはちょっと完成後ということだったんですけれども、アナログ派の3人が松島海岸駅のバリアフリー化ということで質問しておりますけれども、そのときに全協で示されたときに企画課長が答弁したと思うんですが、地区住民への周知ですね、それを考えているということだったんですが、私、地区住民、もちろん駐車場絡みですか、結局きのう決まった無償貸与の分の、そこを今使ってる方々が不便にならないようにということで、地区とか、それから旅館関係の方々に説明あるんでしょうけれども、やはり大きな問題ですので、本当ですと一般の町民の方にも知らせていただきたいなと思っております。関心ある方はやっぱり多いと思うんです。

例えば、私どものこの前説明会あった磯崎手樽線の道路の拡幅とか、そういうのは本当に地元だけでいいんでしょうけれども、松島海岸駅というのは、本当に海岸駅は松島観光の顔っていいですか、一番の入り口ですので、そこを改修するというのは大きなそれこそことだと思うので、その説明会を一般町民にも知らしめるという考えはないんでしょうか、それをお聞きしたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

松島海岸駅整備に関しましては、既に新聞報道等で周知をされておりますが、JR東日本仙台支社長が5月30日に行いました定例記者会見の場で松島海岸駅の整備着手について公表されたところでございます。本町でも広報まつしま7月号で、今度の7月1日に全戸配布される広報まつしまでJR東日本より公表されている内容を踏まえまして全町に向けて周知を行います。また、6月3日の全員協議会におきましても説明をしておりますが、工事に際しましては近隣の関係者を集めた説明会を今後開催する予定でございます。

なお、駅前広場の利用につきましても、今後利用形態変わってまいりますので、事あるごとにタイミングを捉えながら広報等で周知をしていきたいと考えております。



以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） 7月1日の広報まつしまなので、それ見て関心持つ方がふえていただきたいと。やはり松島海岸というか松島地区だけの問題じゃないと思うんです。松島海岸駅のバリアフリーというのは本当に町の最重要課題じゃないかなと思っておりますので、ぜひ多くの方々の意見等を聞いて、まああのときに、全協のときにも駅舎の関係でいろいろ町からの要望はなかったのかなとかっていろいろ出た経緯があるんで、やはりJRの事業ですけれども、町、県もちろんそうですけれども、国もそうですけれども負担、あれを負担していることがありますので、いろいろやっぱり要望等は伝えていくことが大事なんじゃないかなと思っておりますので、その点もし考えありましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 松島海岸駅のことに関してのプレス発表については、仙石線期成同盟会、石巻の市長さんが会長になってますけれども、そういった方々から、この間お会いしたときに松島海岸駅が進んでよかったなというお話等はいただいております。ですから、いろんな各地区の首長さん方も松島町の駅については関心を持っていただけてるんだなというふうには思っております。

それから周知、それから駅の内容等についてでありますけれども、まず先ほど冒頭に議員のほうから観光協会の総会の日程等々お話しされましたけれども、今月観光協会また旅館組合、温泉組合等々総会シーズンみたいであります、これから総会が続くということでありますので、こういった5月30日プレス発表されて6月3日に全協でやった内容等について、そういった方々にも、関係者に周知していきたくと、このように思っております。それから、その中でまた皆様方からいろんなご意見をいただけて町としてもいいものができるように努力していきたくと、このようには思っております。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） ぜひそういう方向でいていただきたいなと思っております。

次に仙台・松島復興観光拠点都市圏DMO、これの2018年度の事業の報告会があったというのは新聞で出てたんですけども、そのときに主な事業としてでしょうか、塩竈市の地域通貨みたいな記事が出てたんですけども、せっかく仙台、松島という名前出てるのに松島のあれがなかったなという思ひありますので、もし松島に関係したことがありましたらお聞かせいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 仙台・松島復興観光拠点都市圏DMO協議会において設立しました株式会社インアウトバウンド仙台・松島の2018年度事業を3月26日に総会にて報告を受けております。総会には知事が出席して行ってるわけでありますけれども、当該年度、訪日外国人のマーケティングリサーチ事業や仙台・松島復興環境拠点形成推進業務、観光業務、受入態勢整備業務事業を実施していくという内容であります。

詳細につきましては、産業観光課長より説明させます。

○議長（阿部幸夫君） 安土産業観光課長。

○産業観光課長（安土 哲君） 株式会社インアウトバウンド仙台・松島の全般的な取り組みを申し上げさせていただきます。

こちら、インバウンドを対象としております訪日外国人のマーケティングリサーチ事業では、インバウンドによる経済波及効果分析、ウェブを活用した2次分析・市場分析等を実施しました。観光拠点形成推進業務では、構成しております6市3町を軸に外国人誘客に取り組みまして地域の圏域関係者との協働によって、つくって・売って・受け入れるを実践し、持続可能な観光地域づくりを目標として取り組んでおります。

なお、観光業務では英語ガイド兼ドライバーによるアトラクシーや仙台市内の居酒屋を案内するツアー等を造成、また受入態勢整備業務では体験型民泊等の基礎調査を実施しております。自主事業では先ほど議員申し上げました地域の地域通貨・寵コインや松島湾を周遊するヘリコプターによるツアー造成等を実施しております。松島単独の事業としましては、昨年11月だったんですけれども松島ナイトツーリズム、紅葉とサンセットクルーズというのを一度外国人を招聘しまして実施したところでございます。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） ヘリコプターのあれもそうだったんですね。ちょっと記事見たときにはちょっと時間の割に値段高いなという感じはしたんですが、まあ興味ある方は乗れるんじゃないかなと思っております。

このDMOはできてまだ1年ですよ。それなんでこれからの拠点だと思うんですけれども、“湾”ダーランドですね、“湾”ダーランド、松島湾“湾”ダーランド、県の主導でやるんですけれども、なかなか見えてこないという町民の声がありますので、ぜひそういうことのないように、このDMO、まあDMOが中心になるかどうかちょっとわからないですけども、それで松島の名前をどんどん売っていただいて、それでそれこそ観光客を震災前ぐ

らいの、今のペースでいくとそんな無理な数字じゃないんじゃないかなとも思ってるんで、これは最後のほうに聞きたいなとは思いますが、ぜひ進めていただきたいと思っております。

次に観瀾亭の指定管理者制度、これも6月3日の全協で説明を受けたんですけれども、3月のときの町長の施政方針でこのことは述べられておまして、観瀾亭を含む町営施設の利活用について、指定管理者制度の導入を含めた検討を行うというふうな施政方針で述べられてるんですが、そのときに受けた印象では、やはり1年ぐらいかけて、これは私だけかもわからないですけれども、私自身はそういうような考えを持ったので、この前の全協で示されたスケジュールはちょっと私は拙速じゃないかなと思ったんですけれども、それについて町長お考えありましたら、よろしくをお願いします。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 観瀾亭の指定管理者制度につきましては、6月3日の全員協議会でお示しをしたわけでありまして、そのときに各議員のほうからさまざまなご意見をいただきました。さまざまなご意見をいただいておりますので、それを今整理しております、そういったものを酌み取った中でどうしていったらいいのかというものを今精査しているという段階でございますので、今こういうふうにしますとなかなか言えませんが、できるだけまたこういう方向でどうなんでしょうかということでお示しできたらいいなというふうには思っております。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） その6月3日にも出ましたけれども、集会施設を区のほうに指定管理とかもありますけれども、運動公園やそれから美遊ですね、そちらのほう、またあとアトレ・るとか文化観光交流館、そちらのほうとかいろいろあるんですけれども、今度はまた児童館も4月からなったんでしょうけれども、やはり指定管理になって、区とかにはまた違うんでしょうけれども、やはり民間とかそれに近いところにやった場合の費用対効果みたいな検証が、あのときにも菅野議員さんだと思いますが、出たんですけれども、そういうような考えはないんでしょうか。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） 全協で議員の皆さんからいろんなご意見を伺いました。先ほど町長が答弁したようにいろんな考え方、対応の仕方あるかと思ひます。前回の全協でいただいた意見を踏まえまして内部で相当検討しなくちゃいけないのかなというふうに感じております。

また、そういう感じである程度の方向性がもし出てきた場合には、また議員の皆様にお示しをし、またさまざまなご意見を賜りたいなというふうに思っております。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうですね、よく議会は3月、6月、9月、12月と定例会あるんですが、新聞なんか見ますとほかの町村の議会ですね、松島は開会する前にもう閉会という記事が多いんですよ。2市3町でいいますと七ヶ浜とか利府も結構早いと思うんですけども、聞くところによると本会議は短くて、ほとんど一般質問ぐらいのあれで全協ですか、その前段で全協でほとんど議員に示される、その回数が多いという話も聞いてますので、やはり全協で全て決めるというのは間違いとは、いいことだとは思いませんけれども、やはり議員に対する丁寧な説明という面では全協を開くというのも必要じゃないかなと思いますので、その考え、町長いかがでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 議会の議事日程について、私の立場からああでもないこうでもないというのはなかなか言えませんけれども、ただ余り突っ込んだ話じゃなくて、議長さんのほうには6月、12月議会、もう少し早く始まるほうがいいのかというお話し合いはしたことはございます。3月、9月が第一金曜日となってるので、ちょっとどうなのかなというお話し合いはしたことがありますけれども。

また、あと議員からの今の全協のことに关しましては、いろんな問題、さっきの海岸駅のことでもございますし、それ以外のこともこれから出てくると思いますので、そういったものについては、できるだけ全員協議会等で詳しく説明していきたいと、このように思います。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうですね、松島町は議員の報酬、宮城県で最初でもなかったのかな、早いほうで上げましたし、そのときにもいろいろ町民の方々から意見出たのは、議員は何日活動してるんだという、まあ委員会活動等もわからないでそういうことを言われるんじゃないかと思ったんですけども、やはり全協とか定例会だけではないですよというような面でも、そういう機会があってもいいんじゃないかなと私自身は思ってますので、これからもその点ではよろしくお願ひしたいなと思っております。

これの最後ですけども、磯島で、私どもが漁業やってる磯島ですが、熱気球が先月ですか、一番最初はこの前6月9日にも上ったんですけども、その前にテレビ放送あったんで、もう人がいっぱい来てるんじゃないかなと思ったら割と少なかつたんです。6月9日、たまた

ま見にいったんですけれども、それなんで一般の町民の方も急に熱気球上がってびっくりしたって、地元の磯崎の方でしたけれども、私はその前からもちろん場所は磯島ですんで聞いてたんですけれども、そういう面でもやっぱり一般の方にも知らせる等も必要ですし、またあと今後は話に聞くところによると何か展開を大きくしていくということもありますので、そちらのほうの説明をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 磯島の熱気球について、今いろいろ聞かれましたけれども、磯島も含めて今松島町に来ている熱気球等に関して産業観光課長より答弁させます。

○議長（阿部幸夫君） 安土産業観光課長。

○産業観光課長（安土 哲君） 磯島の熱気球でございますが、まずあそこで仕事をなされております磯崎漁業協同組合、また周辺にございます宿泊施設3施設に相談をし、調整してまいりました。6月に何度か上げております気球のほうの係留のほうですけれども、こちらのほうは今試運転ということで試験飛行をさせていただいてるところでございます。係留飛行のほうにつきましては、実際に町の駐車スペースで7月からの夏休みより漁港でカキの水揚げが始まる9月末まで実稼働できるよう事業者が準備に取り組んでおります。6月初めには先ほど申し上げましたとおり気球を固定するコンクリート製のおもりを4カ所に設置し、試運転で熱気球を数回早朝の時間で上げております。実稼働では朝日の見れる時間より風の影響が少ない10時ぐらいまでを運航時間と予定しており、1回の時間は10分から15分程度と事業所より説明を受けております。

なお、8月にグリーン広場にて、10月に三十刈駐車場にて、それぞれこの磯島で上げられている事業者と異なる事業者様のほうが熱気球係留体験事業を計画しているところがございます。本町におきましても、観光協会とあわせまして新しい体験型の観光として松島を訪れる観光客へ発信していきたいと考えております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうですね、磯島でやってる業者は東松島でもやって、それで一番最初は七ヶ浜でやってた方らしいんですけれども、それを見て松島でやっぱりやりたいということで、今聞いたらグリーン広場と石田沢、三十刈、石田沢のほうの、また別な業者がということでどんどんふえていけば先ほど言った観光客の増加につながるんじゃないかなと思っております。

磯島でやったイベントっていいますと震災以降復興祭とか、それからあんどんとか、正直失

敗したイベントもあります。正直言って。でも、私自身はイベント来たときに最初からだめって言ったことないですよ。やはり新しいことはやってみて、それでだめだったらまた変えていくとか、そういうようなあれで一回やってみないと何事も経験というのは本当に間違いないことじゃないかなと思っておりますので、本当に今「松島」っていう活字がどんどん新聞やそれからテレビとかに出ると本当に観光客の増加につながるんじゃないかと思っておりますので、これからも続けていっていただきたいなと思っております。

では、次の2問目に入ります。「今後の住民自治への考えは」ということで、これは本当に通告どおりなんですけれども、昨年の議会報告会で高城地区では民生児童委員のなり手がなくて区長さん、町からの区長さんへ照会っていいですか、お願いされているんだと思うんですけれども、大変苦慮していますということと、また幡谷地区では区の役員のなり手がなくて役場からの毎月、今先ほど出た広報まつしまですね、年4回議会日より、あと議会報告会のまとめ等ありますので、議会から5回ですか、そういうような配布物来るんですけれども、以前よりはよくなったと思うんですけれども、重いし、なかなか幡谷地区なんで家が遠いので配達するのも苦慮してるという話がありました。

また、6月2日のふれあいスポーツ大会後の懇親会で区の役員さんから報酬の割には仕事が結構忙しいと。ただ、後から気がついたんですけれども、そちらの方は区長さんとか行政委員さんじゃなくて区のほうで報酬を払ってらっしゃる、いただいている役員さんだっただけだと思います。

そういうような話がありましたので、区長さんとかからは月一で区長会等あって、あといろんな要望等とか来てるんだと思うんですけれども、これまでどのように対処してきて、また今後はどのように考えているのか。どんどん要望というのはふえていくだけとは思いますが、それをまず最初聞きたいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 議員質問の内容の詳細につきましては、企画が担当していますので、担当課長より答弁させます。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

各行政区からの要望につきましては、区長に取りまとめを依頼しております。提出された要望につきましては、企画調整課が受け付けを担当しており、こちら提出されました要望書はそれぞれの要望内容に応じた担当課に回答の作成、現場の対応を依頼しているところでござ

います。回答、その他対応につきまして、こちら町長決裁後に要望いただきました各区のほうへ企画調整課が回答を出しているところでございます。

こちらの流れにつきまして、引き続き区長会等で区からの要望の取りまとめを区長のほうへお願いするとともに、今後も関係課と連携を図って対応をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） 今の企画課長の答弁の最後のほうで関係課ということで、よく聞くのは道路の舗装等ですね、それ建設課長の答弁ですと順番があって台帳で、その順番で予算の範囲内でやっていくというのを以前にも聞いていたんですけども、それで区長さんたちは納得されてるんだとは思いますが、なかなか、やはり予算のことによるとお金がないというのがすぐ出てくるんじゃないかなとは思いますが、できるだけやはり区長さん方はやっぱり一般の区民の方からの要望を伝えるということですので、予算の範囲内とは思いますが、ぜひ応えていただきたいなと思っております。

例えば、私住んでる磯崎の一番古い団地の夕陽が丘ですか、あちらのほうは側溝が開渠っていいですか、ふたがないところが、最初からふたがなく、あとかぶせたのが、何ていいですかブロックみたいなをかぶせてるんで、道路が歩道としても使えないし、ちょっとひどい状態なんですよ。もう開発してから40年、50年ぐらいなるんじゃないかなと思うんですけども、一部直してるところはあるんですけども、この前説明会あった手樽磯崎線でメインとなるところが少しはよくなるんじゃないかなと思いますけれども、やはり各地区から出る要望というのは切実なのが多いので、ぜひ実現していただきたいなと思っております。

次に、非常勤の特別職の報酬ということで区長さんとかの報酬の見直しがあったんですけども、そのときに先ほども言いました町から報酬をいただいてない区の役員さんというのものは承知して思うんですけども、そちらのほうの方々に対してというのは、考え方というのはなかったのでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） まず、前段に各区の要望について、よろしくお願ひしたいということでございますので、30年度の各行政区からの要望件数は約110件ぐらいなんですよ。その110件の中でハードなものもあればソフト的なものもあるということで、例えばA地域にいけば10件、例えば10件あったとして、区長さん、じゃまずこの10件の中からどれからやりましょうかねとか、そういうふうなお話し合いをして各区バランスをとってやっているということで

ございますので、今議員からの質問に対しても、今後それも精査しながらきちっとやっていきたいと、このようには思います。

それから、非常勤の特別職でございますけれども、これは実は平成26年の第4回の定例会の議会日より、ここに報酬改正19年ぶりと、これ議会日よりなんですけれども、こういったものを持ってきましたけど、平成26年度に見直しを行いまして、区長さんで48%、それから副区長さん及び行政委員で15%を増額する改定を行っております。行政区長、副区長、行政委員の方々につきましては、松島町区長等設置規則に基づきまして町から委嘱した上で規則に定める業務を行っていただくことへの報酬としてお支払いをしております。

それにつきましては、町が委嘱している行政委員等以外の地区役員につきましては、地区役員の有無など地区によって異なっているようでございますが、地区の判断により役員を設置しているため町からの報酬をお支払いできる対象には今のところなっておりませんので、ご理解をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） はい、わかりました。やはり地区それぞれの希望とか、それからその地区独自のこれまでのやり方とかありますので、いろいろなんですけど、私住んでる磯崎ですと、まず11に分かれてるんですけども、その中で1,300、今1,300ありますので、結局は一つが100近い、100超えてるところと100以下のところもあるんですけども、そういうようなことなんで、行政連絡員さんのほかに班長ですね、班長を決めてる。それが持ち回りでやってるんですけども、先ほど出た幡谷地区なんかは、結局幡谷だけに限らないと思うんですけど、高齢者が多くて、とても班長にもできないということで同じ人がやってるといような例もあるやに聞いてるんです。

それなんで、磯崎の場合で今はないんでしょうけれども、前は班長さんへ行政委員さんのほうから年間少しですけども手当を自分の報酬の中から出してたというような例もあって、それを制度化するというのはなかなか難しいんでしょうけれども、例えば区長会等のときにそういうような話も、もしあれだったら出してもらって、やはりどんどんどんどん人口減って行って高齢化して行って、本当に後で赤間議員さんも「町政を問う」でちょっと行政委員さんのことの話もあるとは思いますが、本当に手不足で大変だと思うんです。ですから今手打たないとどんどんどんどん縮小して行ってしまうという心配がありますので、ぜひそちらのほうも考えていただきたいなと思っておりますが、町長いかがでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。



○町長（櫻井公一君） 実はことし、区長さん方の改選期っていうんですか、2年に一回の改選期だったということでもありますけれども、各地区においてなかなか行政区長さん、副区長さん、行政委員さんになるなり手がいないというお話は伺ってはおります。そういったことで今後いろんな対策は町としても必要なんだろうと思いますし、それから行政委員さんの仕事って何なのやっていうことを、もう一度町としても整理する必要があると。

高齢化なっていけば高齢化になるほど全て行政委員さんとか民生委員さんという言葉がどんどんどんどん出てきますので、果たしてそういったものがどこまでちゃんと整理していかないといけないのかというものは、やっぱり区長会で一回お話し合いはしなくちゃならないなというふうには思っております。

これは19年ぶりに議会からの提案で実現した報酬なんでもありますけれども、このときもある議員さんからは班長さんの報酬は基本的にないのかというご意見ももらってます。そういったものに関しましても、今後区長会のほうでいろいろお話し合いをして、どういったものにしていったらいいのかお話し合いを今後していきたいと、このように思います。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうですね、区長さんもそうですけれども、きのうの櫻井議員さんとか今野さんのあれでも出た民生委員さん、民生児童委員さんのなり手不足っていうこともありますので、町としても頭の痛いところでしょうけれども、ぜひ解決していただきたいなと思っております。

あと、最後に書いたのは過疎の先進地であります島根県雲南市というところの例なんですけれども、あと雲南市のもっと山寄りの、中国山地寄りのところの第2常任委員会が視察に行った邑南町というところは、何ていいますか、そういうまちづくりといいますか、定住促進みたいなので進んでいると。何しろ山陰地方は山陽地方への人口流出が多くて過疎が本当にもう20年以上前から問題視されていたので、それで対策が進んでいると。

行ったら、大体財源としては過疎債じゃないかなというのはあるんですけども、松島にですから、この最後の質問で雲南市で小学校区の学区単位で職員とそれから予算までつけてやっていると。これは総務課長とか職員の方々はインターネットとかで引いてご存じなんですよけれども、松島ですと一小、二小、旧三小、旧四小、五小と5つぐらいに分けてそういうような対応してもちょっとまたそこは違うんじゃないかなとは思いますが、それについて、今後どういう方向でいくかというのはまだ考えてらっしゃらないかとは思いますが、それについての考えありましたら、よろしくお話ししたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 雲南市の答弁にありましたが、邑南町の話が出ましたけれども、邑南町、私も宮黒の首長さんたちでお伺いしましたけれども、行ってみて、あそこが皆さん物すごくいいいいというふうにお話し申し上げますけれども、あれだけよその隣の町と時間的に離れてる自治体であれば自分の自治体のところで病院から何からやらないとやっていけないんだなというのは逆にわかってまいりました。ですから、その町が抱えている特性というのがあるんだろうというふうに思っております。

雲南市の取り組みにつきましても、地区ごとに地域自主組織を設立して、その地域の自治運営を地域住民が行うことができるよう施策であると認識しております。雲南市では、交流センターごとに地域に地域自主組織を設立して組織ごとに住民からの会費を徴収するほか、地域福祉事業や指定管理事業等にかかわっているとのことでした。また、市は主に交付金によって財政支援等を行いますが、地方自治に必要な職員については、地域自主組織で雇うなど地域の自治運営の大部分を地域の住民が担っております。

当町で取り組むに当たっては、地域活動の担い手不足をしている中の声が聞こえる中で、人的負担を初めとする地域の負担が増大すると見込まれることから、現時点ではまだ検討しておりません。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員。

○12番（高橋幸彦君） そうですね、松島の特性、その自治体自治体の特性がありますので、一概に見にいったからすぐやるということにはならないと思いますけれども、先ほど町長も言いましたように本当に役員のなり手もないし、民生児童委員さんはなおさらですし、磯崎でも今11あるんですけれども、1人の方が2つぐらいずつ担当してるというような状態で、きのうも齊藤課長が答弁してましたけれども、いろいろ民生委員さんが活動するのも大変な、それこそ地区2つ持てればそれだけ人数もふえるということで、回数もふえたりするんじゃないかと思っておりますので、大変なことが多いので、ぜひ町がこれ以上衰退しないような施策を、ぜひ続けていきたいし、いただきたいし、議員としてもそういうの考えるの議員の仕事じゃないのかって言われてるかもわからないので、ない頭をひねって考えていきたいなと思っております。

それで私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（阿部幸夫君） 高橋幸彦議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩に入りたいと思います。再開を11時5分とします。

午前10時52分 休憩

---

午前11時05分 再開

○議長（阿部幸夫君） 会議を再開します。

3番緑山市朗議員、登壇の上、質問願います。

〔3番 緑山市朗君 登壇〕

○3番（緑山市朗君） 3番緑山でございます。JR松島海岸駅整備絡みについて、2つ質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

海岸駅整備に関しましては、松島町民、特に海岸地区の地元住民にとりましては長年の悲願でございまして、それがようやく実現するということが大変喜ばしいことであると感じております。本町はバリアフリーの基本構想を策定し、そして町長初め担当の職員の皆様、特に佐々木課長、そして担当課の皆様、またかつての職員の方々、長年にわたりご努力、ご尽力をされてこられたことについて、心より御礼を申し上げる次第でありますし、敬意を申し上げる次第であります。櫻井町長は駅舎新設を実現したということで歴史に名を残すということになると思います。

海岸駅は昭和2年ですか、もう92年前の建物で、古くて、汚くて、寒くて、狭くて、地元住民にとっては来訪者に対しまして非常に恥ずかしい思いをしております。ようやく新設されるということで再度喜ばしいと申し上げたいと思います。

まず、1つ目でございますが、過日の全員協議会で佐々木課長のほうからご説明ありましたけれども、再度で申しわけありませんが、この駅舎新設に関しましては多くの町民が興味・関心を持ってと思いますので、議事録にきちんと掲載してもらおうとともに、またきょうは傍聴の方もおられますので、詳しい整備内容について、改めてご説明をお願いいたします。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 松島海岸駅のバリアフリー設備整備につきましては、議員の皆様、また関係者の皆様のご指導・ご支援の結果、JR東日本が事業主体となり、駅舎のバリアフリー設備整備に係る工事着手について、5月30日にJR東日本仙台支社長より定例記者会見の中で公表されました。新駅舎の完成につきましては、令和3年度中に完成する計画であり、平成29年6月8日にJR東日本・宮城県・松島町との3者締結した包括連携協定に基づき、引き続き協議を継続し、事業の完成を目指してまいりたいというふうに考えております。

詳細につきましては、企画調整課長より答弁させます。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

6月3日に開催していただきました議会全員協議会におきまして、新駅舎の内容についてご説明させていただきました。あのときの説明以上の内容についてということなんですけれども、それ以上はちょっとございません。

なお、5月30日にJR東日本仙台支社長が行った報道発表以上の情報、全協で配付した資料以上のものについて、同社より示されておりません。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 確認したいんですが、変更点は全然ないということですね。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 全協配付時の資料からの変更点はございません。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 先日の河北新報のプレス発表の記事なんですが、改めてちょっと読ませていただきたいんですが、松島海岸駅改修 22年完成目指すJR東。JR東日本仙台支社は30日、宮城県松島町のJR仙石線松島海岸駅の改修計画を発表した。今夏に仮駅舎を着工、冬ごろに現駅舎から切りかえた上で2021年冬に新駅舎の利用を開始する。全ての工事完了は22年春の見通し。新駅舎は鉄骨3階、延べ床面積670平方メートル。正面に大型のガラスを配置し、内部が明るく開放的な空間になるようデザインした。外観は周辺環境に配慮した落ち着いた色合い。駅側に1番線ホームを新設し、既設の2番線ホームとともにエレベーターを設置する。総工費18億円を国と県・松島町・JRで負担する。

現駅舎は1927年開業の木造駅舎。多くの観光客らが利用するが、エレベーターがないなどバリアフリー対応が課題だった。仙台支社はバリアフリー化とあわせて観光案内のスペースも設け、日本三景松島にふさわしい駅舎に整備したいと説明する。

一般町民は、この記事しか現段階では知っていないと。それからこのイメージ図、小さく載ってますけれども、これしかわからないということで、先日の全協でいろいろ説明を求めましたけれども、若干追加の説明をお願いしたいと思います。

新設のホームが図面で見ますと三、四十メートルですか、下り側にずれてるわけなんです、あれは利府街道へのあそこの高架、アンダーパスにかかるということで、あれ何メートルぐらいずれてるんですか。下り側に。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

1 番線の新設ホームが既存ホームと多少ずれてるように見受けられます。これは県道の高架橋のボックスに荷重がかからないように配慮したものでございます。ご質問のありました何メートルくらいずれてるかというものについては、詳細な数値等は示されておりません。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3 番（緑山市朗君） 新設ホームの土地は J R 所有の土地なんですか。あれは。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

J R の社用地でございます。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3 番（緑山市朗君） それであそこに瑞巖寺の施設があるんですが、あその端っこのほうに松くい虫の被害があった、真っ赤になった松の木があるんですが、下が 1 本で枝分かれしてる、あれは工事の支障にならないでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 現在のところでは支障になるという回答は J R のほうからいただいております。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3 番（緑山市朗君） あれは瑞巖寺の土地の松の木ですかね。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 済みません。底地の所有のところまではちょっと確認はとれておりません。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3 番（緑山市朗君） 多分、去年、瑞巖寺であそのいろんな樹木を剪定した際に、あの木が松枯れが入ってたにもかかわらず、あれを伐採しなかったんで、その辺の経緯はわかりませんか。

○議長（阿部幸夫君） 安土産業観光課長。

○産業観光課長（安土 哲君） 済みません。経緯はちょっと今のところわかりません。申しわけございません。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） じゃあ調査して、あれ恐らく支障になると思いますし、景観にも芳しくないと思いますので、よろしく対処をお願いしたいと思います。

それから、既設のホームに3分の1ぐらい屋根がないんですが、観光客の皆さんが電車から降りてきたときに、あそこ雨の強い日なんかずぶ濡れになるんですが、あの屋根をかける計画はあるんでしょうかね。既設のホーム。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 既存のホームの屋根という質問でございますが、そちらの改修をするという計画はJRのほうから示されておられません。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） それから、この河北の記事にも、あと全協の説明資料の中にもあるんですが、観光案内のスペースを設けるということなんです、どのような内容の観光案内のスペースなのか、これはどの程度把握してるのかお聞かせください。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

駅舎の1階のほうに観光案内のスペースを確保するという計画ではございますが、どのような形という詳細については、今後の検討事項となっております。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 今後の検討ということなんです、どのように、どういうふうに見ていくということなんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 運営も含めてどのような人員配置を置くのかとか、どういった形でサービスを提供していくのかということも踏まえての検討事項でございます。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） それはJRで運営する観光案内所ということなんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） JRが行うのか町が行うのかも含めての検討事項でございます。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） いずれ観光地松島としてはJR任せではなくて、松島町、松島の観光関係者の意向が反映されるような観光案内所にしてもらいたいと、そう思ってるわけなんですけど、JRにぜひその辺を申し入れていただきたいなと思います。

それから、ついでお聞きしますが、仮駅舎ができた時点での観光案内所に関しましては、3月議会で産業観光課長から検討中という答弁だったんですが、今どのようになっていますでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 仮駅舎の駅舎の内部につきましては、観光案内スペースはございません。新しい駅舎の内部について検討事項として今考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 3月の答弁で水族館跡地に新しい施設もできるし、あの辺を総合的に考えて仮駅舎に関してもちょっと検討したいという答弁だったんですが、そうじゃなかったでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 安土産業観光課長。

○産業観光課長（安土 哲君） 仮駅舎のほうに関しましては、まだその辺、レイアウトもちょっとわかってなかったんですけども、今から新設されるだろう駅舎について検討ということで発言させていただいております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） じゃあ仮駅舎に関しては、観光案内所は考えないということなんですね。

それから、2番目ですけれども長期総合計画、それからバリアフリー基本構想というのを今回質問に当たりまして改めて読んでみたんですけども、策定した、策定にかかわったスタッフの皆さんの駅舎整備に関する熱意や強い思いがひしひしと伝わってきて、この策定も大変だったんだなというふうに思います。

この駅舎整備に関しまして、JR側と何年かにわたって協議等されたと思うんですが、松島町の整備に関する意向や希望や願望等々将来を見据えてどのように協議をなされたのか。また、松島の考えとか今後どのように反映されるのか、その辺を簡単にご説明をいただきたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

今回の松島海岸駅バリアフリー設備整備着手につきましては、町の悲願である海岸駅のバリアフリー化というところに重きを置きまして、長期総合計画及びバリアフリー基本構想、都市計画マスタープランで掲げる駅舎のバリアフリー化に関する構想がようやく実現する運びとなりました。

これまでのJR東日本との交渉につきましては、平成29年6月8日に締結いたしました包括連携協定に基づきまして連携事項の一つとして駅舎整備の検討を行って打ち合わせ協議を継続してまいりました。バリアフリー設備を行う事業に対して国が行う補助、鉄道駅総合改善事業補助金、こちらの補助採択を目指し、平成29年から協議を進めております。

鉄道駅のバリアフリー設備整備に係る国の補助制度につきましては、乗降客数3,000人以上の駅が対象という基準がございます。ただし、松島海岸駅は日本三景松島であることや宮城県・東北の主要な観光地であることなどが考慮され、バリアフリー基本構想、こちらも反映され、今回このたび国の補助採択を受けることが可能となりました。エレベーター設置による駅舎のバリアフリー化について実現する運びということで、これまでの町の思い、要望が実ったということで解釈しております。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） そうすると本町で、企画課で考えておったこと、構想しておったこと、ほぼ実現したということなんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

海岸駅のエレベーター設置に伴うバリアフリー化については、実現したと思っているところでございます。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） それから、このバリアフリー基本構想の中で81ページなんですけど、特定事業に位置づける施設の移動等円滑化に係る問題点ということで、何点か記載があるんですが、松島海岸駅に関しましては高齢者・障害者等が利用しづらい駅舎出入り口の戸、通路や階段の手すり、駅内の構造を音または点字により案内する設備、改札からホームまでのエレベーター、ホームと車両出入り口との間隔・高低差、高齢者・障害者等の円滑な利用に適した売券機、トイレの出入り口付近における音または点字による案内、こういう点はあれなんですか、実現できるということなんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。



○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

平成30年3月に策定いたしましたこちらのバリアフリー基本構想、議員のおっしゃられております81ページに松島海岸駅におけるバリアフリーの観点から申し上げる主な問題点ということで、今議員のほうがお話になられた点、こちらにつきましては、JRとの協議におきまして当然ながら解消すべき事項ということの認識のもと、今回の設計の中に反映していただいているというところで解釈しております。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） はい、わかりました。

それから、3点目なんですけど、3月議会で新駅舎整備に関して、本年7月着工の平成32年度までの2カ年というご説明だったんですけども、先般の全員協議会での資料ではいつの間にか「3カ年」に変わってるんですけども、これはどういういきさつで、いつこのように変わったのか、それをお聞きしたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

工事のスケジュール案としまして6月3日開催の議会全員協議会におきましてご説明したとおりでございます。これまで本町では2020年、2020東京オリンピック・パラリンピック開催の年にあわせてエレベーター、一部でもいいから海外からお越しいただいた方にご利用していただくためにエレベーターを動かしていただきたいということで町長初め要望を重ねてまいったところでございます。今回のことし3月に議会、3月の当初予算の審議の後にJRのほうから示された工程の計画の中で既設ホームへの連絡通路、エレベーターを設置するために新たな地下通路を掘削しなければならないということで、既存の線路に影響のないように、振動を与えないようにということで非常に難工事が予測されるということで工期が今回示された形ということになってございます。

また、駅舎の機能、要は駅の営業を継続しながらの工事になりますので、基本的には夜間工事が主体となるということで、令和3年度中まで工事がかかるということで3月に示されたものでございます。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） もう一回確認します。それ3月の話しだったんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 私のほうが予算審議で特別委員会のほうで3月6日の中で

2020の年には何とかということでご説明したかとは記憶しております。その後、3月19日なんですけれども、議会が閉会后なんですけれども、JRとの打ち合わせがありまして、その中で工事のスケジュール案ということで示されたものでございます。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 3月の下旬には、もう3カ年かかるとわかっておったにもかかわらず、全員協議会の際にも出ましたけれども、そういう情報は速やかに議会に教えてほしいという話がありましたけれども、今6月ですから、先日の全員協議会で2年から3年になるという話が出てびっくりしたわけなんですけれども、10年かかるのが15年かかると同じもので、これべらぼうな延長だと思うんですけれども、私も地元の皆さんに2カ年で終了すると、そういう話もしてますし、また私の広報紙にもそのように書いておりますので、「緑山、2年と言ったけれども3年かかんだどや」「なんだ」と悪口を言われておりまして、非常に私だけじゃなくて同じ海岸の議員もそのようでありますから、どう責任をとってもらえるんでしょうかね、これね。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 工期に関しましては、2年というのは私の願望がとにかく強くて、JRにずっと2年2年と、とにかく2020のオリンピックということで標準を絞って、JRのほうに要望活動の際にはずっとお話を申し上げてきたということであります。ただ、JRに関しては、やはり工事を実際やる担当のほうになりますと、安全性を物すごく高めて計画されるというお話でありました。

当時、海岸駅の整備に向かったの交渉相手をされていたのがスガワラ次長さんという方でしたが、そういった方々と松島の海岸駅のバリアフリーについて話をきて、今度変更になって、その方が今度工事のほうに回ったわけでありまして、その方から聞くと、どうしても営業しながらの工事になるので、なかなか2年というのは厳しいと。2020の仮設のエレベーターも難しいという話を実は受けました。それで受けても、なおかつ私もまだ言ってますけれども、できるだけ一日でも早く完成するように、これからもいろんなときに早期完成を目指してやっていただきたいということは申し上げていきたいというふうに思います。

議員皆様方、いろんなことで周知したものが内容変わったことにつきましては、大変申しわけなく思いますので、これからいろんな旅館組合、観光協会、さまざまな総会等々、それから地域説明会等これから計画してますので、その中で工程につきましては、詳しくこうこう

こういう経緯だったということをご説明申し上げていきますので、ご理解いただければというふうには思います。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） どうして議会のほうに、その旨の説明がなかったんですか。議会のほうに速やかに、その工期変更に関して、なぜ説明はしてもらえなかったんですか。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） 今まで議会の中で何回も申し上げてますけれども、この駅前の整備計画については、JRのプレスを待つということ、いろんな打ち合わせいっぱいしてます。結果的に言うとぼんぼんと来たように見えますけど、そこに至るまでは相当のJRとかなんかの打ち合わせが相当持たれてます。そういう中でJR側からはプレス、5月30日、ここを受けて、それからお話しするようにというのが、これはもう我々事務を進めてる中で一番のこうありました。そういうこともありまして、その期間を説明する上でも絵柄がない状態です。プレスも何も、どの絵柄、なぜとかってそういう説明もできないということもありますので、やっぱりプレス後にその絵柄が出てきて、それが一体となった工期の説明ができるんでないかということでプレスを待つ、そのことも説明しようということです。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 少なくとも海岸地区に関しましては、私がかうそつきになってしまったものですから、佐々木課長に海岸地区を事情説明の上、釈明して回ってほしいなと思うんですが。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） 担当課長が現場に行って、回って説明、それは先ほど町長言いましたけれども、一つの事務を進めていく上での事業の流れ、JRとの流れの中でJRから、こちらで勝手に、さっき町長言いましたように2年間ぐらいというお願いをずっとしてきたんですけれども、JRで実務を、設計ができて、こういう事情になると、やっぱり3年ぐらいかかるということを示されたという経緯もあります。

そういうことでありますので、これから町長先ほども言いましたけれども、海岸とかいろいろところで総会等々でその辺の経緯を含めながら事業の説明をしていきたいというふうに思います。ですから、担当課長が現場に行ってどうのこうのではなく、そういう海岸とかいろいろな方への説明の場で、総会とかいろいろな場で、その辺の期間的なものを含めて説明を申し上げたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） わかりました。わかったことにしておきます。

それから、新聞発表でちょっとイラスト、イメージ図が掲載されました。また、先般の全協での資料、イメージ図を地元の方々に私お見せしたんですけども、全協でも申し上げたんですが、どうもピンとこないと。観光松島の玄関、表玄関として、ちょっとイメージと外れるのではないかという意見が多くて、確かに大型のガラスを配置し、内部が明るく開放的な空間になるようデザインした。外観は周辺環境に配慮した落ちついた色合いと。色合いはいいんですけども、どうも馬小屋みたいな感じだという、そういう酷評をする人もおりまして、東北線の駅舎が建設されたときも、あのときも馬小屋みたいだなという意見が結構ありまして、これ何とか外観ぐらい設計変更というのは不可能なんではいしょうか。馬小屋だって酷評されてるわけですから、どうなんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） この新しい駅舎が馬小屋に見えるかどうかは、それは別の話としまして、JR東日本がこの図面をもとに国の整備基準をクリアし、バリアフリー化が図られるということでございます。また、こちらのほうで宮城県の文化財保護課のほうの了承を得て事業着手に、実現できるということも踏まえまして設計変更は難しいものと考えます。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 今月下旬に住民説明会をするということなんですけれども、その際にこのイメージ図も提示をして関係者の皆様のご意見をお聞きになったらどうなんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） こちらのほう、6月3日の全員協議会のほうでもご説明しましたが、まず初めに地域公共交通会議を開催します。その中で仮駅舎のほうも踏まえて利用のほうを説明した後に地域の方を対象とした関係者の説明会、当然全員協議会で配付しました資料をもとに説明してまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） JRは旧国鉄のまんまで完全にお上意識が強くて、まあ感じておられると思うんですが、松島に対してつくってやるんだからありがたく思えという、そういうスタンスでいるのではないかなというふうに私はかねがね感じてるんですけども、ただでつくってもらわねえじゃないですから、3億7,000万も松島は出すわけですから、それから利用す

る人間もお金を払って電車に乗るわけですから、ただで乗せてもらうわけじゃないんですから、その辺やっぱり住民の意向、また議会の意向、それをＪＲにぶつけてほしいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） まず駅の改修に関して、事前の話になりますけれども、駅をリニューアルする場合に利用客、乗降が3,000人以上という、まず一つの基準があるわけですね。それを基準を満たさない場合にどういう手法を使うかということで今回いろいろ取り組んできた。今いろいろ議員が申されましたけれども、逆にいろんな方々が松島町の海岸駅について心配されて、いろいろなご助言を賜った。その中には前会長、社長だった清野さんもいるでしょうし、今は今度松木さんも常務から今度またかわるようでありましてけれども、そういった方々、それから東北推進機構、それからＪＲのＯＢの方々、それから県の関係者の方々、そういった方々から一体になって心配していただいて、そこに国会議員も絡んでいろんな手法を絡めてやっところまで来たというのが現実であります。

ですから、やってもらってんだとか、やってくれてんだという意識じゃなくて、一緒にやるという意識で我々は取り組んでいます。そういうことをご理解願いたいというふうに思います。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 町長が先ほどいろんな諸会合で説明なさるといことですので、住民説明会だけじゃなくていろんな場所で町民の皆さんの意見を吸い上げて、できれば、再度言いますけれども、せめて外観ぐらいだけでも私は変えてほしいなと強く思います。交渉がうまくいかない場合、私も応援しますので、お手伝いしますので、座り込みでもハンストでも何でもやりますので、学生時代にやりましたから、強く要望しておきます。皆さんの意見を広くやっぱり吸い上げていただきたいなと思います。中国の古い言葉で「民の声は天の声である」という言葉がありますけれども、ぜひ広く意見を吸い上げてほしいなと。対処してほしいなと思います。

以上で、1問目を終わります。

次に、「ＪＲ海岸駅周辺の総合的な整備計画の策定を」ということで通告させていただきましたが、ちょっと質問要旨読み上げさせていただきます。

ＪＲ松島海岸駅の駅舎整備に伴い、町百年の計のために長期総合計画や都市計画マスタープランの構想をも踏まえ、駅周辺の将来的・総合的な整備計画を構想し、策定すべきと考える

が、駅前広場用地が宮城県から無償譲与されるとのことであるが、大変喜ばしいことであり、この機に早急に考慮すべきと考える。観光振興、商業等の産業振興、景観の保全と形成、増加が見込まれる外国人観光客対策、居住環境の向上、国道・県道・町道等の交通結節機能強化等々を見据え、松島町の表玄関としての総合的な整備計画策定を望むというふうにしたわけなんですけど、まず初めにお聞きしたいのは無償譲与の件なんですけれども、先般の全員協議会の資料に、地元自治体である松島町の町有財産としたほうが駅前広場整備計画の立案について、自由度の高い検討が可能となると町長からも課長からも説明ありましたけれども、さらに資料に「平成31年1月19日、宮城県より駅前広場用地を譲与する連絡を受ける」と書いてあるんですが、これは県のほうから松島にあげますよと。完全に県の意向だったんでしょうか。松島町として譲与してくれという話は全然しなかったんでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） まず、質問の前段に先ほどのちょっと要望にちょっと戻るかもしれませんが、まず最初に先ほど私のほうでこれから総会やなんかあっているいろんな町長が言ったことについて説明していくというのは、工期、期間的な話であります。2年だったのが3年になったと。こういう流れで2年以上延びるようになりましたという話は話の中でしていきたいと。

ただ、最後のほうに要望ありました景観、形、色とかそういう要望、先ほど最後にあったわけなんですけれども、これにつきましては、ここに来るまで先ほど町長、いろんな方といろんな協議をしてきてここまでやっとなってきたわけなんです。それを踏まえて国の認可も取る、文化庁もここで、ここまで、これならいいという、やっとなってきたわけでありまして。色から初め形、さまざまな面で文化庁、あと本省、国土交通省の認可等、そこまで来ているわけでありまして。

そういう中で、今ここで色が、例えば今言った別な色とかさまざまなってくると、そこまで来てたのができなくなる可能性もあるし、ですから現実問題としてはやっとなってきたということで、その色、形等々については、話が出るかもしれませんが、これは現実的にちょっとできないことではないかと。もうここまで来たので、この形を粛々と今後進めていくというのが町としての基本的な考え方でありまして。

今ちょうど2番目の質問の中で土地の譲渡、ちょっと通告とはちょっと違うのかなと思っはおりますが、担当課長のほうからちょっと答弁させます。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

全協の資料のほうで、こちらの駅前広場用地に係る経過について資料をお出ししております。この中で「平成31年1月19日、宮城県より駅前広場用地を譲与する連絡を受ける」ということで、かねてより仮駅舎の設置について、どのような形が望ましいかということで3者で打ち合わせをしております。その中で県有地についての話も当然ありまして、この1月19日に宮城県より町のほうへ無償で譲与しますという通知を受けた日にちとなっております。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 改めて確認しますが、松島町から欲しいという話はなかった、しなかったんですね。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） 最初に町のほうからくださいということは申し上げておりません。ただ、無償でという話の流れの中では、県のほうが無償でやった場合はどうですかということでの確認は以前から打ち合わせの中ではございました。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 先日の全協で県有地のままでもよかったのではないかという話もありまして、この駅前広場の整備に関して、これまで県による整備計画等はなかったんでしょうかね。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） ございませんでした。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） グリーン広場、それから水族館跡地の新しい施設もできることでありますし、一体的な松島の、観光松島の表玄関にふさわしい整備をしてほしいなと思ってるわけなんですけれども、海岸交番の脇に三交の松というのがあるんですけれども、こういう松と桜とですかね、あれは無償供与にはどうしてあの部分ならなかったんですか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） あれは県有地ではないからです。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） どこの所有の土地なんですか、あれは。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） あそこは国有財産で、たしか財務省だったかな、財務省ですね。国有財産です。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） そうですか。はい、わかりました。あれも県有地であれば、あれを一緒にもらえればよかったかなと思ったんですけども、わかりました。

そうしますと、ついでお聞きしますが、あれはよく枝ぼうぼうで景色が悪いという話があって、公園事務所にかけあってくれなんていう話もあるんですが、あれは維持管理はそうするとどこでやってるんですか。具体的には。

○議長（阿部幸夫君） 安土産業観光課長。

○産業観光課長（安土 哲君） 松関係になりますと県の部分と町部分ありまして、あの部分は県のほうの管理ということでしていただきますので、県ですと公園管理事務所もありますけれども、県の農林部のほうの所管になると思います。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 周りの景色もちょっと悪くなったんで、ちょっとあれを、整備をお願いしておきます。

それから駅前整備、駅前広場整備に関して本町で今構想している点というのは何かあるんでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 佐々木企画調整課長。

○企画調整課長（佐々木敏正君） お答えいたします。

海岸駅前の駅前広場につきまして、現在構想してる内容ということのご質問かと思いますが、これにつきまして、さきの議決のときにもご説明しましたが、今後面的整備やどういったサイン、環境などについて、総合的なグラウンドデザインにつきまして、どう策定することが望ましいのかということから始めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） あそこに民地民営の商店街がありまして、経営している方には大変申しわけないんですが、観光客から美しくないという意見がありますので、あの辺の整備に関しても総合的に計画策定を含めてしてほしいなと思います。

それから……。〔発言者あり〕12時で終わりますので。〔「期待してます」の声あり〕

それから、あそこの交番なんですが、あれは国道に背中を向けて、国道を車で走る人たちが



圧倒的に多いわけなんですけど、後ろ向きで、またきちんとした表示もないと。赤い電灯一個ついてるだけで、わかりづらいという話をよく聞くんですけども、水族館跡地に新しい施設もできることですし、例えば国道側に入り口を、玄関を一つつけるとか、そういう工夫はできないものなんでしょうかね。あれね。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） その景観というか、全体的に見ればそういうご意見もあるのかなと思いますけれども、今の形で、逆に言うとああいうのは逆にいろんな事故ありますから、みんなの目に触れるところが好ましいと。また、観光地でありますから、逆に言うと余り特定のばつと目につかないほうがいいかもしれません。

ただ、入り口を2つというのはちょっと、これは県警のほうと相談してみなくちゃいけないかなと。今ここで可能とか不可能とかということは答弁としてちょっとこれは難しいことかなというふうに思います。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 国道側に入り口があると、うんと便利だと思うんですけども、さっきの将来的な総合的な整備計画なんですけれども、いつごろをめどに考えておられるんでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 先ほどから議員、なかなか難しい質問されてるなということ、まず駅前商店街の方々にして町が何か整備するよという事はなかなか難しいのではないかなというふうに思います。

また、交番のことにしても、例えば議員が皆さんから署名でも集めて何か町のほうに出していただければ、またそれで町が動くということは可能かもしれませんが、町からどうのこうのというのはなかなか難しいと。

それから駅前の松の問題にしても、文化財が関係するものについては慎重にやらないとだめだというのがあるかと思えます。そういったことも踏まえながら、これから仮駅舎があそこに来月予定されておりますけれども、それ以降いろんな公共交通会議、それからいろんな地域の方々の要望、それから旅館組合、温泉組合、観光協会、中央商店会、そういった方々のご意見、そういったものを全部集約して、最後はこんな形の駅前にしてよろしいですかと、そのときには駅の駅前のほうの45号に行く歩道に関してもどうなんですかということいろいろ議論されると思うんですね。

それから、さっき水族館跡地のこともありましたけれども、JRのほうにはあそこのパーツができた段階で水族館跡地はこんな形の建物ができますということはお話し申し上げて、私が仙台支社のほうに行ってみせておりますので、そういったことも考慮して物事いろいろ考えているということにはなっておりますので、ただ単にばらばらにみな考えているということではございませんので、よろしくをお願いします。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員。

○3番（緑山市朗君） 町長には強いリーダーシップをもって、英断をもって、勇断をもってこの整備計画をぜひ策定してほしいなと思います。歴代町長が、あのときの町長、あれを決断してれば今松島こうならなかったのになという案件が、ご存じだと思うんですが、たくさんあります。先日、私の母親が95歳で亡くなったんですが、私も95歳まで生きるつもりでおるんですけども、その際に櫻井町長は駅舎整備をした偉大な町長だったと。でも、あれをこうしていれば、これをああしていればよかったのになという悪口を言わないで死にたいと思ってますので、ぜひ町長には鋭意頑張ってくださいと思います。

質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（阿部幸夫君） 緑山市朗議員の一般質問が終わりました。

ここで昼食休憩に入ります。再開を1時とします。

午前11時58分 休憩

---

午後1時00分 再開

○議長（阿部幸夫君） 会議を再開します。

4番赤間幸夫議員、登壇の上、質問願います。

〔4番 赤間幸夫君 登壇〕

○4番（赤間幸夫君） 4番赤間です。例年第2回というと6月の月になってということなんですけど、昨夜は10時20分、二十二、三分ごろだったと思いますけれども、山形県沖を震源としてマグニチュード6.7・震度6強、これは新潟市のほうですが、同じように鶴岡では6弱と、かつて私どもが経験した震度、強度であります。宮城県側でも震度4を観測しておりました。けさのニュースでも幸いに大きな被害は発生していないかのように報告はされておったんですが、だんだんだんだんと暗い時点ではわからなかった山崩れ等、日々時間を追うごとに被害の程度があからさまになってきてるなというふうな状況であります。

忘れないためにも、あえて申し上げておきたいと思いますが、これまでに宮城県沖地震・

1978年の6月発生しておりますが、あれから41年。岩手・宮城内陸地震発生から11年、そして東日本大震災の発生から8年と3カ月が経過しております。地震被害に対応したさまざまな訓練も宮城県庁を初めとして県下の市町村、陸・海・空自衛隊初め国の出先機関など参加して行われていることは、これまでもテレビ等を通じ、報道されております。

さらに6月からは、例年ではありますが、集中豪雨や台風の襲来時期ということでふえてまいります。この月を「土砂災害防止月間」と定め、国や県、市町村が一体となりさまざまな注意喚起、啓発等の活動が行われております。この機会に、私もそうではありますが、職員の皆さん、そして私ども議員の皆さんも胸の内に反すうをし、自己啓発の一助にいたしましょうということで導入部分であります。

それでは、質問に入らせていただきます。

町長の任期が、この9月10日で4年が経過しようとしております。本年3月の定例会施政方針に加え、町長はさらりとして2期目への挑戦を述べられておりました。聞き手側の議会議員の皆さんも、多分職員の皆さんもあつけにとられた感があったのではないかなというふうに感じたのは私だけではないかと思えます。初めて町長が町長選に挑む決意をしたときも今回もではありますが、胸の内では用意周到に思案されていたんだろうなと私自身推測しております。町長いわく、「問題は山積みしており、変革の時を迎えている。ついては、さまざまなことに取り組んでいく」と述べておられます。

これから町民の皆さんへ町政への関心を喚起し、松島町の今後、将来を考えていただく絶好の機会になればとの思いから、今回あえて議会だより等つなぐためには関心を寄せたいという思いで、ちょっとかた苦しく上段に構えてしまいましたが、「政治姿勢を問う」ということを通告順に従い、質問させていただきます。あえて町長には聞き上手になっていただき、私も余り熱くならない程度に進めていきますが、どうかその辺も踏まえてご答弁いただきますようお願い申し上げます。

それでは、1点目であります。

最初に人口減少がもたらすさまざまな課題、特に財政への影響、地域コミュニケーションの衰退、少子高齢化などをどのように認識され、みずからの解決策をどう描こうとしておられるのかということをお尋ねしていきたいと思えます。よろしく申し上げます。

○議長（阿部幸夫君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） ただいまのご質問の全体に私のほうから冒頭にちょっと答弁をさせていただきます。

まず、今回の質問、町長ですけれども、本年の3月の定例議会の、先ほど言われました施政方針を述べられた際に町長より2期目の町政へ取り組む決意を表明させていただいております。また、同定例会におきまして高橋議員の一般質問にもお答えをしているということでもあります。

そうした中、今回赤間議員より一般質問の通告として今言われました5つの質問要旨について通告をいただきました。これについて、ちょっと内部的に検討させていただいたんですけども、町長が前段に決意を表明しているということ踏まえて公職選挙法上の問題も懸念されるというちょっと考えも出てきましたので、このことを宮城県選挙管理委員会事務局に確認したところ、3月の定例会において立候補の表明をした後に現在の任期以降のことに係るこうした形式の質問に対する答弁は、対外的に実質な公約と捉えられ、選挙の事前運動と見られるおそれがあるという見解がありました。

こういうことがありますので、具体的な、これから町長が答弁申し上げますが、具体的な取り組みの内容の中にその辺もちょっと配慮しながら答弁をしていきますので、その辺はご理解のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 赤間議員の「政治姿勢を問う」ということで、5点について質問されておりますので、できる限り誠意をもって答弁していきたいというふうに思います。

人口減少がもたらすさまざまな課題等についてでありますけれども、経済産業活動が縮小し、税収が減少する一方で高齢化の進行に伴う社会保障費の増加が見込まれ、それに伴い、厳しい財政状況が予想されるほか、行政区を初めとする住民組織の担い手が不足し、共助機能や地域のにぎわいなど地域の活力の低下が懸念されているところであります。超高齢社会における人口減少は日本全体の問題であり、本町におきましてもこうした問題解決のため、これまで以上に対策を講じる必要があると認識しております。

このため、これまでも定住人口の確保と企業誘致の取り組みを初め長期総合計画及び都市計画マスタープランを初めとする町の主要な各種計画に基づき、その実現に向け努めているところであります。また、現在、長期総合計画・後期基本計画の策定作業を進めておりますので、人口減少問題への対応を図るため、より有効的で実現性の高い計画策定に努める必要があるというふうに認識しております。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） 私もこの質問いろいろあれこれと考えた折に、まずもって町民の皆さん

がどういう質問をされたら好奇心というか、刺激するかなというふうな思いで描きました。今サポート、副町長が答弁されたように公職選挙法というのがあるからねと。いかに公の場で質問をやりとりして、現段階でどういう空気が流れてるのかわかりませんが、そういったことに抵触しないようになあという思いで、ここに掲げた内容で5点、無理に町長から腹の内でもう聞き出そうというものではございません。

しかしながら、こういう機会が町民の皆さんにとって絶好の町政を考える、あるいは先ほど町長が答弁されましたけれども長期総合計画の後期計画に入っていくわけですから、そういった中に町民の声としてこういったところを反映してほしいなという一助になればなという思いで、現段階であります。現町長のいろんなお気持ちを聞かせてもらって、こういったものがやがてはまとめ上げて議会だより等に反映されたらなという思いであります。

それで参考までになんですが、本町は、この6月1日現在であります。人口1万4,025人です。男性が6,802人、女性が7,223人。この4年近くの前になります。参考までに平成28年6月1日現在と見てみますと、1万4,795人、男女の分は申し上げませんが、あれから4年近くたって770人も人口が減少したんだなという思いであります。

あわせて参考までになんですが、高齢化率としては現在37.9%に至ってる。出生児数としましては、年間70人、まあちょっと多いなあと考えたときには80人ちょっと超えるときもありましたけれども、この間にね、総じて見ると大体70人から75人の間かなというふうに捉えています。

松島町の、これも参考までですが、合計特殊出生数としては1.29人、合計特殊出生数としては、これはあくまで定義であります。女性が15歳から49歳までの間に生む子供の数というふうなことになってございます。

そこでなんです。今町長から答弁いただきましたが、この4年近く経過して町のかじ取り役を担ってきていただきました。確かに今答弁の中にあつたように人口減少は全国的な流れ、むしろこの町の将来を考えたときに少子高齢化がもたらす影響を重視した取り組み施策を描くというんですかね、減少していくのがということでもありますけれども、あれから、あれからというのは30数年もさかのぼってみると、こういった人口形態でずっと右肩上がりできたわけではあります。この10年近くから右肩下がりのほうに転換してきてるわけですが、こういったことが各自治体にといいことではあります。松島町も、特にですけれどもいろんな施策を打つためには財源が必要とされるわけでありまして、その財源に占める税、特に交付税ですね、この交付税は第一義に人口が算定以上の基礎数値とされております。

人口減、あわせて先ほど答弁になかったので、あえてお伺いしますが、特に小学校の統廃合によって地域コミュニケーションの衰退が影響してるかなど。そういったものに対しての検証とか、あるいはもう既に長期総合計画の後期計画の中に町民の皆さんからいろいろアンケートとった、これまでにとったアンケートの中からも読み取れるわけではありますが、その再生策を町に期待してるというような部分もあるわけですから、できるだけ、初原地区も例外ではありませんけれども、いわゆる少人数、少人数世帯でも元気、活性化している地域の創出を何とか生み出していただけないものかなという思いであります。そういったものについて、何か町長のご所見的なことをお持ちでしたらお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 人口減少をいかに抑制して歯どめをかけていくかということになるんだろうというふうに思うんですね。今、松島だけじゃないんでしょうけれども生まれてくる方、それから亡くなる方、こういったバランスが今大変崩れてると。極端なことを言うと倍ぐらい亡くなる方が多いというときもあるようで、月もありますし、なかなかそういった中で人がふえてこないというのが現状であります。

ただ、いろんなこれまで4年間見てまして、松島町で住宅的なものを開発したところに関しましては、ある一定期間ですぐ家が建つというようなことが今見られておりますので、こういったことが消費税絡みでここ来たかもしれませんけれども、今後もこれまでいろんな土地利用等についていろいろお話し申し上げて、議員の皆様方にも考え方をお話し申し上げてきましたし、また人口的な土地利用についても、ご説明申し上げてきたと。こういったことを、まず成果を出すように我々行政側としては、まずそこを求めて進めていくと。そのためにまた今後議会の理解をもらって予算をつけてやっていくことになるんだろうというふうに思います。そうしたことによって、そこの土地の有効活用ができて、またそこににぎわいが戻ってくるというふうになれば町とすれば変化につながるのかなというふうに思いますので、よろしくお願いを申し上げたいというふうには思います。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） 私ども、私自身が所属してます総務経済常任委員会では定住化というものを題材にしていろいろ政務調査等展開しているわけではありますが、そういったこれまでもそうでしたが、町に対していろんな提言型等をもって各財源手当策が交付税等よりというよりも、先ほど高橋幸彦議員さんが触れておりましたけれども、辺地債とか、そういった置かれた住環境というか生活環境というか、そういったものを引くくめてであります、

そういったところに手厚く財源手当されてる今のシステムでありますから、そういったものを今松島が急に期待するわけにはいかないんでありますから、そういった中であってできるだけ、町長も答弁されておりましたけれども人口を急激な減り方じゃなくて徐々に影響度合いの少ない形になるように抑制を練っていきつつも、片や民間の宅地開発等を含めた住宅政策、それからこれまでも出てきましたが、東北放射光施設誘致跡地への工業系の長期総合計画での位置等とっておりますから、そういったことにできるだけ工場等、これは生活環境に余り影響を与えないような形で、ここはお願いしておかなきゃいけないんですけれども、そういった企業誘致を考えていただきながら、職住混在した住宅政策というんですかね、税收アップ対策というんですかね、そういったことも念頭に置きながら図られたらという思いであります。これは町の施策担当ね、企画サイドなんか特に念頭に置きながら描けたらということになります。

一旦ちょっと1問目このくらいにしておいて、また振り出しに戻るかもしれませんけれども、次に2点目に入ります。

2点目が、松島の産業をどのように分析しているのか。特に農林水産業や商工業へのみずからの認識と、その活気を取り戻すための考え。これまで4年間行政のトップ、町のかじ取り役として担ってきた経験値からも、こういったことに対して、こういったところがもしもっと力入れられたなという考えもおありでしょうから、そういった点のお気持ちを聞かせていただきたいと思っておりますけれども。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 松島町の産業につきましては、1次産業、稲作の生産調整に伴って農業従事者等の高齢化が進んでおりました農業経営体が減少しているという状況であります。また、水産業につきましても漁業従事者の高齢化に伴う自営漁業者数が減少しており、カキ養殖においては新たな養殖方法の検討や漁場の見直し等が行われている現状下にあります。農業生産性の向上や新たな農産物の特産品開発、他産業との連携強化、農漁業に取り組む方の人材育成、町と関係機関など広く連携した情報発信などが求められているというふうに認識しております。

商工業におきましても、新たな開業者がいる一方で高齢化などにより廃業する経営者もいることから、役場や商工会、金融機関に創業支援、相談窓口を設置している現状であります。これらに対応して、より充実した支援態勢が求められているのものと認識しております。また、特産品開発並びに特産品のマッチング支援やまつの市等のイベントでの販売会等におい

て商品の紹介を行っておりますが、それらを生かした産業ネットワークの形成が求められていると認識しております。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） 松島町の、とりわけ第1次産業としての農業、そして水産業関係ですね。これまでもなんですが、私もその農家の生まれとして、町長もたしか農家の生まれだったと思いますけれども、そういったところの力の入りぐあいというんですか、松島町の組織体制的にもですが、これまでずっと見させていただいて、私自身6年余りになりますけれども、もうちょっと行政がそういった生産者の側に入って、これも先進地の事例から学びとったものでありますけれども、本当に例えば今産業観光課さんにそういったエキスパート的な職員を、ちょっと通常ほかの職員よりは在職年数が長くなるかもしれませんが、そこに骨を埋めてもいいくらいで活躍いただけるような職員の配置というんですかね、専門職的にもですね、やっとな雇用的な形で経験豊富な方が配置していただいておりますけれども、やはりもうちょっと本職的に正規職員でその辺の配置まわりを勘案してもらえたら、もうちょっと農業あるいは水産業に携わる方々、あるいは商工業関係に携わる方々が町に相談しやすくなるのではないかなというふうな捉えなんです。

ちょっとここで町長に聞きたいと思いますが、そういった第1次産業従事者なり商工業関係の従事しておられる事業主さん、町役場に来ていろいろ相談事をしたいという形でやってるケースというのは、私は余り目にしていないわけなんですけれども、どんなあんばいなんですかね。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） まず、第1次産業ということなんですけれども、まず農業の問題ですけれども、平成27年の9月から首長になったわけでありましてけれども、それ以降で手樽地区の基盤整備事業というのが出てきたと。これは何だったのかというと、やはり配水がうまくいかないんだということで何とかしなくてはならないということで新たに復興事業の中に一つ取り組んだ事業なんですけれども、これが約172ヘクタールということで、それで松島町の役場のほうに関係者の方々、そのときは鶴田川と、鶴田土地改良区はまだ合併してませんので、手樽のほうの土地整理組合というのかな、そちらのほうで林さんが会長で参られましたけれども、再三再四にわたってやはり訴えられてきたということで、私のほうですぐに県、国のほうに動いたということであります。この動いてから雑駁に言うと4年でありましてけれども、やっとなまた大きな圃場になって、美田になって今夢が、稲作が、田植えが



終わったというときでありますので、先ほど昼休み、皆様方にうちの副町長がお話したかと思いますが、手樽の地区を元気にする会というのがあって、そういった方々がそういったことも祝って花火を上げたいんだというお話もありました。

そういったことで、一つはそういった農業のシステムが、今までは1ヘクタール以内の田んぼが多かったわけでありましようけれども、今度大型圃場になって生産性を高めていくと。ただ、従事する方は確かに減ってきてはおりますけれども、逆な意味でこれからはそういうものが求められてくるところもあると。全てがそうだとは言いませんけれどもですね。

それから、商工業に関しましても、28年ごろからでありますけれども、うちのほうの企画でいろいろ担当されてまして、新たな企業を起こす方々に助成金を出すのでどうなんですかということで、実は若い人たちは14人も企業を起こしているということでもありますので、そういったことで新たな商工会での若い人たちの広がりが出てきていると。

それから、これはちょっと駄弁になりますけれどもJRの四季島の、豪華列車・四季島で商工会青年部の方々と見送り等やったわけでありますけれども、そういったことを通じていろんなお話し合いができるようになったと。彼らは彼らのいろんな意見があって、実は私もあそこに、商工会青年部の中に行くと、向こうの人たちがそのためだけに町長に質問事項というのを実は持ってて、それで私がそこでお答えするということがあるんですが、そういったところをここ3回、3年ぐらいやってきてるということで、ある程度意思疎通はできてきているのかなというふうに思っております。

それから、漁業のことで言えばちょっと私もよくわからなかったんでありますけれども、いいニュースだなと思ったのは、6月の13日でありましたけれども、深刻な後継者不足、県が農業士・漁業士を認定するということが実は報道されてまして、その報道されたときにある方の顔写真が、顔がテレビに映ったので、あれっと思って後で調べたんですけれども、赤間拓哉君、これは漁協青年部の会長さんかな、やられてますけれども、この方が漁業士だったと。県はこういった方々を育てて後継者不足に何とか手を打っていきたいということでございますので、町としても今度は近々漁協青年部の総会ありますけれども、そういったところに行っているいろんな要望を聞いて、カキは本当にどうすればいいのか、廃材のことだけで相談されると困るんでありますけれども、今後の方向性について新たなところをまた見出せばなというふうに思っております。

そういった意味で、いろんな方々とお話し合いをする機会は前よりはだんだんだんだん多くなってきているというのが現状であります。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） 今るる答弁いただきました。確かに松島町、産業の種別というんですかね、分類によっては単体の町一つではなかなか立ち行きできないということで県を巻き込んだり国を巻き込んだり、あるいは先ほどお話し出ましたけれども鶴田川改良区さんを巻き込んだり、そういった形で一本化して何とか今日的な農業政策を、松島流の農業政策を展開しようとして努力している姿には私も見て感心させられますし、ある程度敬意を持つところがあります。

松島町全体で今耕作田んぼ、休耕とかなんとか含めないでありますけれども、230何町歩、何ヘクタールぐらいでしょうか、耕作されてるのは。JA仙台管内でも松島は多いところがありますけれども、ただ言えることとして今町長があえてお話ししてありますが、こういった第1次あるいは商工業関係の団体の皆さんと、よく言えば膝を交えて忌憚のないお話し合いを持つという機会をふやしていくということは大事なことであります。大変。そういった声を反映した行政サービスの展開というのが月になってくると、なお一層よろしいのかなという思いで聞かせてもらいました。

それと、一方、その下のほうにもかかわってきますけれども12行政区、いろんな特色ある行政区を抱えている関係でなかなかこういった構造改善事業とか圃場整備事業にあずかり得ない、あるいは農業振興区域としての位置づけを持たない未改良田というんですかね、1反歩・1,000平方メートルにも満たない小さな田んぼで、ずっと長年農業を営んできている方々が方々におりまして、そういった方々はやはり高齢化の波もあって後継者難にもあってというふうな状況で、しかしながら地域の環境対策のために一助になればということで、食べるだけでもということで耕作しておられる。あるいは、場合によってはそういった姿に見かねて温かい手を差し伸べて耕作を代理してくれるというケースの方々もおられるというのはもう百も承知ですから、そういったところ、いわゆる補助事業等の入らないところの政策ですね、農業関係を特に中心にして言いますけれども、そういったところの温かい手の差し伸べというのが町独自の何かからの施策ということで打ち出し得ないものかなという思いでいます。

2年前に果樹部会ということで、これまた一つの対策としてスタートさせておるわけでありましてけれども、そういったこともやはりやってみなければ、やって1回2回の失敗でめげずに3年、4年、5年とたつうちに実になってくるケース、あるいはこういった世の中ですから子供さんや娘さんがお父さんお母さんの面倒を見なければいけないとして戻ってくるやも

しれない。そのときに自分の生まれ育った土地柄に細々として経営してきた、その田畑を何とか起こしてみたい。あるいは、先ほど町長が言いました商工関係での起業者の方々おられるわけですが、全国には流してみると農地、田畑つきの農家を住まわせてくれないかという声は随分あるというふう聞いてますし、若い世代も、あるいは第一線を退いた、定年退職して、そういった求めてこられる方々もおられると思います。そういった方々を町に何とか引き込んでどうかという考えもするわけでありますけれども、そういった方策まで発展させてみたいという思いは町長おありでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） これらについては、いろんな方から一般質問等でそういった方々へ手を差し伸べられないのかということいろいろお話を受けてまして、いろいろ考えていくということで答弁しておりますので、それ以上余り膨らませないようにしたいというふうに思いますけれども、ただ今いろんな稲作以外のものを、そういう地目は水田でしょうけれども、そこに何からの果実等育てられないかということで今やっております、昨年あたりからやっと実をつけて、私も食べましたけれども松島で育った桃とか、そういったものも今できておりますので、こういったものがもう少し広がっていってくればなあというふうに思っております。

それから、どうしても私は今65歳、60歳定年とか65歳定年というふうになりますけれども、第1次産業はやはり75歳ぐらいまで頑張っていたかないと成り立たないのがこれから先だと思っんですね。そういったことに関して、どういったことが町で助言して、すぐ補助という言葉にはなかなかいきませんかもしれませんが、町としても対策をとってきたというのが、これから求められていくんだろうというふうに思います。

それから、地区名は申し上げませんが、そちらのほうで、例えば田んぼのところに工場をつくりたいんだと。もう私は町なかでは店が小さいので、そういったところに自分の店を持って行って営業拡大したいと、こういった方もおりますので、それらに関しては今行政区長さん、それから地権者さんとかそういった方々に町が橋渡しになって、直接私が、こういうことをやりたいよなだけでどうなんだろうかということで地元の区長も喜んでおりますので、ぜひそういった実に結びつくようにやっていければなあというのが今の思いであります。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） はい、わかりました。およそ大体答弁されたなど。私が一般質問の口上

書きのシナリオに描いたのに答えてくれるかななんて突き合わせさせてもらってましたけれども、およそ答えておられるんだなと思って、また思い出しましたら戻るかもしれないけれども、そのときはひとつよろしくということになります。

3点目に入ります。3点目、特定、特色ある12行政区から、町民の皆さんからさまざまな声を受けておられると思います。とりわけ昨年7月でしたか、6月後半から7月でしたか、行政懇談会を開催しております。現町長が就任して初めて1回の開催でしたかと思いますが、これまでも何回か一般質問等で出させていただきましたので、要は今前段の2点目の質問でも答弁いただいたように、町長みずからがこの行政懇談会というものを担当課に命じて開催、企画してもらって、町の重立った管理職の皆さん、あるいはその部分では班長さん等連れ添って各行政区に入りながらさまざまな意見を吸い上げていただき、できるだけ行政区内のいろんな意見、要望に耳を傾けていただけないだろうかというところでの質問であります。

何か不足してるなど、現町長さんだけに不足してるとは思いませんけれども、何か町民の皆さんはいろいろ話し込んでみますと、もうちょっと平たく役場側に来ていただくと助かるんだげつとねという話をいただきます。

最近もありました。先週の日曜日の朝、行政区内で朝6時ころから草刈りしたんですけども、たまたま15分程度で集中豪雨があって途中でやめざるを得なかったのであれでしたけれども、その雨宿りしてる中で、ちょっと議員さん、実はいろんな町道関係ですとか、あるいはため池ですとか、そういったものが、ここ何十年と手を加えられてないんですよという話をされるわけです。どこをどう突っついて、あるいはどこをどう通じてルートをたどり、行政区の優先性のもとに町にお願いしたら即効性があるのっしょというふうな話しでした。私もいろいろ聞いていて、何度かこのことについては質問してきてますけれどもねと、なかなか回らないんだねという話で終始して、じゃ地元の若い人たち連れて、何とか仮設でいいからやってみっかなという話もしながら、砂利だけでも持ってきてというふうな話もしながら、じゃ今度みんな出て頑張っぺねと。とても役場が出てくれるまで待てねえなという話になったりしますから、そういったところの話もあるわけなんですけれども、こういった部分の声を町は財政的にも大変な流れの中から何とか工面して救済措置を早目に打つというような施策、これはさきの議員さんの答弁にも既に出されてますから、なかなか難しいんだろうとは思いますが、それにしても、それにしても時間もかかっているというふうな状態ですし、行政区によっては少々偏りがあるんじゃないかなというふうな思いもするわけなんですけれども、その辺についての思い、くどいようですが、再度お聞かせいただきたいと思っておりますけれども。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 各地区からの要望につきましては、さきの議員さんに答弁したとおりでございますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。昨年、行政区役員懇談会をやらせていただきました。全てをやってみて、各行政区のいろんな思い、町に対する要望等々受けております。それを受けて区長さん方には丁寧にお答へしているつもりではあります。

それから、今、後段、議員が後段のほうに、何かあったときにすぐ対応してくれないというお話があったかに聞こえましたけれども、町とすれば建設課のほうにすぐやれるように職員を配置しておりまして、自前で自分たちが直接行ってやってくるというようなこともやっておりますので、逆にそういったものを議員さんのほうから紹介していただくとか、そういったことを賜ればもっといいのかなというふうに思います。

これらについては、ただいろんな確認事項もあって各地区どこが優先的にとということではございませんので、たまたまソフト面で当たったところ、ハード面で当たったところがあるかもしれないけれども、各行政区の要望を行うが上には何かすぐに金とかなんとかというんじゃないくて、その緊急性とかを考えてやっていきたいと、このようには思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） 最後に言われましたけれども、やはり公共施設あるいは公共用地内の状態によっては近隣地にお住まいの町民の皆さんが苦慮して、みずから出てかっぱ着てスコップ持っていていろいろ動いているのを見ると、やっぱり地域の少々年はいってるけれども、俗に言う若手のみんなに声がけして、みんなして照らしてやる、その上でそういった実態を町側は見えていただければ、おのずと心情的にもスピードアップしてくれるんじゃないかなという思いで見えますし、今いみじくも町長から答弁いただきましたが、私のほうで受けとめて、お話しできることはできるだけお話もしてあげますし、体を使わなければいけない点では体も使いましょう。

しかしながら恒久対策として、あるいは町が本来やるべき仕事までも町民の皆さんで担うというのはいかがなものかというところもありますけれども、できること・できないこと、それから町側、よく副町長さんは口にされるようですけれども、やはりきっぱりとできること・できないことをはっきり申し上げた上で、できるだけ早い時間でもって、そのお答へをもつてあがるという姿勢、そういったものが大事かと思ひました。ぜひとも今町長みずから

答弁されたことを踏まえて職員の皆さんが頑張っていたら、なお嬉しいなという思いであります。

さらに4点目に入ります。4点目であります。今のものに関係するわけですがけれども、行政サービス処理能力向上と解決へのスピードアップが求められてます。これは全国自治体至るところで同様な住民からの声として上がってるわけですがけれども、また組織・職員、この場合、私ども松島役場全体としてこういった取り組みに対しての現状認識をどうされておいて、これに対してどう改善策を打っていくという考え方に立つのか、そういったところをお聞かせいただけたらと思いますが、いかがですか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 行政サービスの処理能力向上と解決へのスピードアップについてでありますけれども、職員に対しては機会あるごとに常に指導しております。職員も十分その辺は理解をしてスピード感をもって個々に職責に応じた責任ある業務遂行に努めているというふうに認識しております。この間いろんな事件がありましたけれども、それらについてもすぐに担当を呼んで、うちの町はどうなんだと、すぐ調べるようにということで指示もしておりますし、また大雨等が降れば、あそこはどうなんだと、大丈夫なのかとか、そういったものは常に指示を出しておりますので、職員はそれにすぐ対応してくれているというのが現状であります。

今後も職員の各層に応じた職員の研修力を高めて職員の遂行能力を高めながら時代の変化に対応した人材の育成を図って、引き続き全職員一丸となって行政サービスの向上ができるように取り組んでまいりたいと、このように思っております。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） ぜひとも役場の組織体制上あるいは職務権限上の問題としてもですけれども、町長を筆頭にして副町長さん、それから総務課長さん以下各課長さん方は職員に対して業務命令等を発する権限を持つわけですから、当然そういったものを速やかに発せられるように常々庁議は何度となくなっておられるんでしょうけれども、そういった面で今町長が答えておられましたけれども、何か他所で、他の自治体で事件等発生した場合には、そういった懸念される部分には速やかに動いてもらうということは大事なことですし、そういったことでわかり得た事実で、もし議会のほうにも協力要請がかかるようなことがあれば、これまた案内をかけてもらうなりというのも必要なことかと思えますし、あるいは松島町は行政区制度を敷いているわけでありますから、行政区がすべき役割とか、その他町の行政運営に

なくてはならない関係団体の皆さん等連絡、連携を密にして対応していただけたらよろしいかなという思いであります。

何となく時間の経過とともにこういったものがなれっこになってというんですか、俗にひょっと抜けるときがあるんですね。これは監査事務なんかやってると内部統制の問題とかいろいろあるわけなんですけれども、そういったことをやはり町長含めて皆さんで声かけあって対処していかないと自分たち一人一人の職員の身につかないものというふうに理解するわけですから、そうした点をひとつお願いしたいと思います。

それで最後にまず進めます。5点目であります、町長みずからが変革の時と、さまざまなことに取り組む第一歩はどのようなことからかということで、これが公職選挙法等にかかわってくるといづいなど。ちょっと答え方によっては、もちろんあらかじめ県の選管に問い合わせ確認してるようですから、その辺の答弁の仕方も含めて念頭に置きながらのお答えになろうかと思いますが、まずはお聞かせいただきたいと思います。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 既に3月定例会において基本的考えを述べておりますけれども、この場で個々の具体的な内容は申し上げられませんが、復興推進期間後を見据えまして、これまでの既成概念にとらわれることなく、より効果的で実現性の高いまちづくりビジョンが共有できること、それからもう一つは重点施策の行程を明確にすることが大切でありますので、これまで重要課題として取り組んできた施策の着実な推進が求められるというふうに認識しておりますので、これらについて取り組んでまいりたいと、このようには思っております。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） そういったお答えなんだろうなと思います。なかなかこう言うてはなんですが、記事映えするっていうんですかね、今はやりの、議会だより等にこう、しんしゃくして町民の皆さんに関心引くようにということで上段に構えて「政治姿勢を問う」なんていう質問だったけど、この辺がもしぴっと出せたらなと思いつながら聞かせてもらいましたんですけど、要は今町がさまざまな課題、既にこの何年か抱えてきてて、前町長時代もそうですし、現町長になってもそうです。非常に町民の皆さんが温厚な方々が多いと申し上げればいいのか、ならされてしまってきてるかなというところもあろうかと思いつけれども、そういったところを打ち破る、打破していただくためには、やっぱり町役場の職員、皆さんの職員力というんですかね、そういったものを上げてもらって、積極的に行政サービス客体であります町民の皆さんの側に歩み寄って行政サービス展開をしていただかなければなら

いんだなというふうな思いであります。

いずれ時間の経過とともに来る選挙が控えてるわけですがけれども、これは選挙になるかならないか、それは別問題として、選挙管理委員会等もできるだけ町民の皆さんの義務が、権利行使ができるようにということで啓発活動いただけたらなとは思いますが、今まで申し上げた中で、特にこの4年近くたつ町のかじ取り役として展開してきた町長の目から、これだけは少し実現足りなかつたなというところがありましたらお聞かせいただけますか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） これだけは足りなかつたのかなというところかなりあるかと思っております、なかなか申し上げられませんが、ただ一つ言えるのは東日本大震災があつて、もう今年9年目に入っているということが、まずこれが現実なんです。復興・創生10年と言われてますので、来年度いっぱい仕上げようというのがまず一つの流れであります。ですから、これに向けて今松島町が取り組んでいて、いろいろ議会のほうからもいろいろご指導賜りましたけれども、取り組んでいる工事、またこれから取り組まなくちゃならない事業等もございますので、それらを速やかにどのような形でもってくるのかというのが一番なんだろうというふうに思います。これを逃すと松島町の改革はできないというふうに思いますので、これらについては復興庁の予算をきちっと町として精査できるようにやるのが、まず第一だというふうに思っております。

これらについての進捗がどうだったのかなと言えば遅いと言われるかもしれませんが、自分とすればこのぐらいなのかなと、これがいいかどうかわかりませんが、最終的に全てのものが議会から認めていただいた事業に対して町が全てやって、それが町民に反映すれば一番いいわけありますので、そういうふうな形があるんだろうというふうに思います。

それから、もう一つはやっぱり子育て環境だと思います。これらについては、今準備委員会立ててますけれども、これらについて早急な対策をとって環境整備をする必要があるだろうし、それから今いろいろ、きょうもいろんな海岸駅のこととか土地利用のこととかいろいろさまざまなことが出ましたけれども、これらについても一つの形を構築していく必要があると。こういったことについては、これからきちっとやっていく必要があるんだろうというふうには認識しております。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員。

○4番（赤間幸夫君） 私ども議長以下13名の議員も毎回、とりわけここ2回くらいは9人くらいずつの議員さんたちが一般質問という形で町長のほうに向かっていろいろ質問を展開され



ていると。そういったところをできるだけ酌み取っていただき、私ども議員としては町長に向かつては言わせてはもらってますが、各所属課の課長さん方、教育長さん初めそういった所管を持つ課の課長さん方、とりわけそういった方々には十分お含みおきいただきながら町長とのあうんの呼吸のもとに展開いただけたらな、ありがたいなという思いであります。

それと、やはり何としても、私も何か二、三日前も言っておられましたけれども、こちらでも言ったかな。年齢とともに涙腺が弱くなってるというか緩くなってるというのか、震災のとき、たまたまいたところが影響したのかなんか、ちょっと情に流されやすくなってきたかなあなんていう思いでありますけれども、できるだけ厳しい姿勢を持ちつつ性質・性格は改めないようにして議員活動にいそしみたいとか取り組みたいと思っておりますけれども、何よりも、最後でありますけれども職員の皆さんが明るく健康的に業務に携わってもらって、町の行政サービス展開がスムーズにいくような姿を期待して私の質問を終わりたいと思います。きょうは、どうもありがとうございました。

○議長（阿部幸夫君） 赤間幸夫議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩に入ります。再開を2時5分とします。

午後1時53分 休 憩

---

午後2時05分 再 開

○議長（阿部幸夫君） 会議を再開します。

13番色川晴夫議員、登壇の上、質問願います。

〔13番 色川晴夫君 登壇〕

○13番（色川晴夫君） 13番色川です。今回の質問、最後になります。皆さんもお疲れだと思いますけれども、しばしよろしく願い申し上げます。

それでは質問、大綱2問。一番最初は「幼稚園・保育所、幼保のお散歩と歩行者の安全対策について」ということで質問をさせていただきます。

戦後高度成長期とともに車の普及が急増し、1970年代は交通戦争と呼ばれた。そのときは交通事故で死亡なさった方が1万6,000人、その後3万人を超えたという時期もありました。これは自殺者を超すほどの交通事故、そういう時代もあったということでもあります。

また、近年、高齢者によります事故が多くなりまして、逆走、アクセル・ブレーキの踏み間違いなどたびたび報道されております。ことしに入りまして事故が非常に多く、特に歩行者が車の犠牲になる痛ましい事故が相次いでおります。私もその一人のドライバーとして改

めてその重大性を認識し、肝に銘じていかなければならないと思っております。昨日も3件の同様な事故が起きたということで、本当にテレビつけるたんびにきょうもか、きょうもかと痛ましい事故があるわけでありまして。皆さんもご承知のとおり、この4月、東京池袋におきまして87歳の男性が運転する車が暴走、3歳の女の子と母親が亡くなりました。神戸でも市営バスが横断歩道に突っ込み、2人が死亡。そして、皆さんもご承知のとおり5月8日ですかね、18日かな、大津市の交差点で車が保育児童の列に突っ込み、16名の死傷者を出したという本当に痛ましい事故があるわけです。

このように、どうしても歩行者には避けられない事故の報道があるたび、私たちは大きな悲しみを覚えるのではないのでしょうか。この春の全国交通安全運動の重点項目の一つに「子どもと高齢者の安全な通行の確保」が挙げられました。そういう中で6月の12日河北新聞、きょう後ろにおられる松田さんの恐らく記事だと思いますけれども、この松島町死亡事故ゼロ6年と、このように大きな記事が出されておりましたので、このことについて後で町長からちょっと一言コメントいただければありがたいと思いますけれども、そういう中で歩行者にとって危険な道路はまだ多いと思っております。改めて危険箇所の点検、ガードレール、ポールの設置など安全対策を講じる必要があるのではないかと思います。私の今回の一般質問は、幼稚園・保育所の子供をいかに事故から守るかに視点を合わせての質問となりますので、よろしくお願いを申し上げます。

まず、今言いました「死亡事故6年ゼロ」というようなことで町長の言葉をいただければ、よろしくお願ひします。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 交通死亡事故ゼロ6年ということでありまして、実は6月8日の真夜中の24時をもって丸6年を迎えるということでありました。若干ちょっとプレッシャーになって、何事も本当になければいいなと思いつつも過ぎるときもあつたわけでありましてけれども、交通関係に関する、ここに櫻井議員さんもいらっしゃいますけれども、交通安全指導員の方とかいろんな、母の会とかさまざまな方々が松島町の交通安全について啓蒙活動、春と秋の町民総ぐるみの交通安全運動では自主的に展開をさせていただいているということでありまして。そういった成果が各町民の方々に少しでも浸透すればこういうふうになつてくるんだらうというふうな、こういう6年死亡事故ゼロというふうになつたんだらうというふうな思ひますし、またそれだけではなくて観光客が多い中であつてこういったことを迎へられたということに関しては、本当に私としても喜ばしいというふうな思ひしております。

これらのものにつきましては、いい意味で七ヶ浜さんに負けないように松島町も続けていかないとだめだということにもなりますので、これらに関しての注意喚起等は町としても各関係機関と協力しながら今後も取り計らっていきたいと、このように思います。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。

ひとつその辺行政も、ただ45号は観光客多いですからね、町外の方の、そういうこともあり、本当に事故を起こしたくて起こすわけではございませんけれども、本当に私たち一人一人が十分にその辺注意をしながらの運転義務が私たちにあるわけでありますので、よろしくこれからは注意深く運転していきたいと思えます。

それでは、質問であります「幼稚園・保育所のお散歩の現状について」ということから質問をさせていただきます。

まず、幼稚園のお散歩、この間は保育所の事故だったんですけれども、現在松島町では幼稚園のお散歩はなさってるのかどうか、その辺をまず聞きたいと思えます。

○議長（阿部幸夫君） 児玉教育次長。

○教育次長（児玉藤子君） 幼稚園のお散歩についてお答えいたします。

幼稚園につきましては、隣接する小学校の校庭や周辺を中心にお散歩のようにしておりますので、余り公道に出るといことはございません。ことしはまだ一回も出ておりませんで、園外の遠足とかの保育が中心となっております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。ことしは校庭でと、小学校の校庭でということで、やってないということでございますね。じゃ保育所、保育所を伺います。私も仕事の関係で、場所柄が瑞巖寺の隣なものですから松島保育所の子供たち、園児がたびたびあそこ、本当に小っちゃな子供が来るのを本当にかわいらしく見守っておりますけれども、保育所のお散歩の現状を、どうなっているのかお話しいただけますか。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 保育所のお散歩の現状でございますが、季節や天候にもよりますが、週一回ほど実施しております。1クラス当たり3名の保育士を配置して引率しております。以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。1クラス3名ということで、1クラスと

いっても何人いるかわかりませんが、何名あたりに何名とか、子供が何名に対して先生が何名とか、そういう基準は別にないわけですか。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 1クラスおよそ20名になっておりますので、お散歩の際は、その際3人保育士をつけると。その理由としては、町立保育所のほうでお散歩のマニュアルを作成しておりますので、それに基づいた形でお散歩のほう実施しております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、わかりました。そのとき、次は先生の付き添いは何人かということであわせて今ご答弁いただきましたんですけども、子供をよく未満児、未満児ね、何ていうんですか、車に乗せて本当に囲われてわあーって行ってますけれども、あれも何人に対して何人ということも、あれこそ大切なんだと思うんですけども、どうなんですか、あれは。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 今のお話については乳母車だと思いますけれども、特に乳母車だからという、だから人数を多くするとかというのではなくて、基本は1クラス当たり3人保育士をつけてるといようなことでございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、わかりました。そういうことで週一回お散歩するよと。雨の日は、たまたまその日はだめだったということになれば別な日にスライドするかどうかわかりませんが、そのお散歩のコースというのは大体その保育所、保育所で何通りか持っているかなとは思いますが、決まってるんでしょうか。お散歩のコースというのは。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 各保育所、お散歩のほうのコースのほうは決まっております、1園当たり2コースぐらいになっております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） 2コース、大体1つの保育所で2コース、大体決まってやっているとありますので、それも当然保育所の現場の先生ばかりじゃなくて担当の町民福祉課のほうも全部把握してることでしょね、当然。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 当然に町民福祉課のほうでもコースのほうは把握してござい

て、図面のほうも持っております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。そういうことで今回の大津の場合ですね、交差点のほうで待ってたら、あおり事故みたいなのでドーンと車が来たと。そういうことで、じゃ一体松島の保育所はそういう交差点とか県道、国道、町道、そういうところを、交通量の多いところがお散歩コースに入ってるということはあるのでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 国道、県道で特に信号機を渡るケースということでお話しさせていただきますけれども、磯崎保育所においては県道奥松島松島公園線、こちらのほうに信号がございまして、あと松島保育所については、当然のごとく国道45号があるというような状況でございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） その信号機を渡るということもあるんですか。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 信号機を渡ってお散歩しております。この際に注意を置いてる点については、できるだけ車道から児童を離して保育士を、保育士が子供さんたちを囲む形で信号機が青になるまで待っていると。そして青になっても、なおかつ安全を確認の上渡るといような状況でございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。

私ね、知り合いの1人が保育所にあつて、この方は町内でなくて多賀城にいる方なんですけれども、やっぱり保育所、信号機あるところをやるんですよと、その目的の一つは子供にも信号機の渡り方を覚えてもらおうと、そこを言ってもらいたかったんですよ。信号機の安全、青になったら渡るんだよと、そういうことの訓練の一つで信号機のところも歩くということになったんですけれども、そういう意味を込めても松島もそういうふうやってるんですね。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） お散歩の目的といたしましては、子供さんたちの体力の向上であつたり社会との触れ合いであつたり、もちろん今議員おっしゃったように交通安全教育も含めてお散歩のほうを実施しているというのが目的でございます。（「そうですね」の声あり）

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、わかりました。そういう中でこういう事故もあったと。なくてもお散歩コース、当然把握してるということのあれですけれども、改めて今回の事故を受けて担当のほうでそういうコースを、またさらに点検したかと、コース見たかということの質問なんですけれども、いかがでしたか。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 今回の事故を受けて、改めてコースのほうの検証をしております。もちろん担当課でございます町民福祉課だけでなく交通安全の観点から総務課、それから道路施設の観点から建設課が同行し、子供たちと一緒に散歩を行い、コースの検証を実施しておりました。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。当然検証したということね、素早い対応ありがとうございます。たまたま私、蜂谷危機管理監に「どこに行くの」って言ったら「お散歩コース検証です」と。おおやってんだなということで、この一項目もついでに改めて書いたわけですけれども、やっぱり素早い行動ですね、こういうものはやっぱりあの新聞報道見たり報道見たり、父兄がああ報道見て本当に我が町は大丈夫かとすぐ来ると思うんです。そういう中で父兄の心配も本当にはかり知れないと思ったことで、その父兄にはこういったことで松島のお散歩コース、私と同様に質問されたかなと思うんですよ。そういう話し合う機会とかなんとかというのは持たれましたか。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 現時点では話し合い等は設けておりませんが、6月の22日に保育参観がございますので、その際散歩における安全性の取り組み等について各保育所長のほうから保護者に向けて説明を行う予定になっております。

所長と打ち合わせした際に、この参観に向けて打ち合わせをした際に、大津市の事故を受け、保育所でも散歩ルートの再点検を検証を行ったと。それから、子供たちにとって散歩については発育であったり発達であったり、そういった面からお散歩は非常に重要でことであることから安全なルートの散歩に心がけ、保育士の配置等も工夫しながら、より一層の安全態勢確保を図るというようなお話をさせていただきたいと思っておりました。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） そうでしょうね。当然そこまでやっていかないとだめだと思うんです。

さらに、これはできるかできないかわかりませんが、実際父兄さんが子供たちが歩いてる道、どういうところを歩いてるのか、そういうところも時間としてそこを歩くと。そして、なお一層父兄が安心していただくような、今課長が言われたように体力向上から、そういうことも含めながらのお散歩なんですよということを、さらに歩いて説明してもらえば、なお一層安心するのかなと思うんですけれども、そういうお考えはどうでしょうかね。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 親が実際のコースを歩いて子供たちの散歩について、まあ安心だなと、大丈夫だなという実感を持ってもらうのが一番だとは思いますが。

ただ、保育所の保護者については、お仕事を平日ですね、土曜日も含めてなんですけれども、お仕事をされてるケースがあるんで、なかなか全体でやるのはなかなか難しい面があるのかなというのは感じております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） そういうことも含めて、それは難しいこともわかりますので、そういうコースとか、今度の6月の22日に保護者会と、そこで説明するという事なんで、こういうコースも歩きますよと、こういうコース歩いてんですよというようなことの説明も一項目つけ加えて説明していただければ、なお安心かなと、このように思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

そういう中で最後なんですけれども、答弁の中にも含まれてんですけども、最後は幼稚園・保育所交通安全に対する、大体親御さん、お母さんとお父さんと一緒に来るんで行き帰りは十分大丈夫かなとは思ってますけれども、さらにどういう指導をしているのか、そういうことのお話をしていただければと思います。

○議長（阿部幸夫君） 太田町民福祉課長。

○町民福祉課長（太田 雄君） 保育所の各所長に対しては、大津の事故の次の日に所長会議ということで参集させまして安全対策の確認、今後の散歩のあり方について、甚だ恐縮なんですけれども、私のほうから指導させていただきました。

内容については、日常的に利用する散歩の経路とか公園について、異常や緊急性の有無がないか、あと散歩中に工事箇所とか交通量を含めて点検し、記録をつけるなど情報を全職員で共有する、していこうということで指導のほうさせていただいております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） そのように取り組んでいただければ、本当に完全に万端というこ

とはあり得ないかもしれませんが、今考え得るそういう対策をとっていただければいいのかなと思いますので、ひとつ子供たちの安全安心をよろしくお願いを申し上げたいと思います。

そして、次の項目であります。松島町の歩道安全対策についてということであります。

1番目の問題は各議員さんからも質問がありました。そういう中で今野さん、きのうの今野議員の質問に、ガードレールまだついてないけどこういうふうになって、私の質問にも検討し、早速国交省のほうにお願いしますというようなことで、その答弁も含めての今野さん、今野議員にも答えがあつて、業者が単独、そこだけの工事では業者さんがなかなかないんだというようなご答弁だったなと思っております。

また、きょう、高橋議員さんもこのように同じような質問されておりましたんで、実際本当に担当の皆さんも、職員の皆さんも知ってると思うんですけども、あのS字、どこから見ても観瀾亭の下とそれから萩の月さんのところの45号ね、過去に何回も突っ込んでんですよ。何回も突っ込んでんです。特に萩の月さんのほうのところは危ないということで、改修前はガードじゃないんだけど丸い支柱を埋めて、そこに飛び出さないようにというような対策もとってたんですね。今回はそういうことが歩道広くなった部分、そういう対策はとられてないんですけども、あとまた以前は観瀾亭のほうに大型かなんか突っ込んでいったという、これはどこにでもあり得るんですけども、危険性はあそこは特に高いというようなことで各議員さんも質問をそういう意味でしてるということでもあります。

そういう中で改めて聞きますけれども、こういう議員の質問を受けて、やっぱり早急に担当のほうでは動いてもらわなければならないということで改めて聞きます。どうでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 赤間建設課長。

○建設課長（赤間春夫君） 国道45号松島海岸地区の松島海岸駅前から伊達政宗歴史館までの歩道整備につきましては、平成30年6月の瑞巖寺落慶法要にあわせ、歩道幅4.5メートルの拡幅整備が完了いたしました。先日、あときょうの今野議員さん、高橋議員さんからの一般質問にもありましたが、整備前は歩道と車道の間ガードレール、これは横3本のパイプのもので実際にはガードパイプになりますけれども、このガードパイプは設置しておりましたけれども、完成後は設置してない状況となっております。今後設置をしてまいりますけれども、当初は観瀾亭下のクランク箇所及び五大堂付近海側の歩道が狭い箇所ですね、そちらのほうをガードパイプを設置する計画でございましたけれども、現段階では全区間の設置と考えております。



なかなか設置が進まないということですが、まず最初に危険箇所2カ所と言われるものを早急に実施していただきまして、あと全部を完了していただくように要望してまいりたいと思っております。

また、歩道が拡幅になりまして歩道の中に車が進入するというのもしばしばありましたので、その進入防止といたしまして国道と町道の交差点部というか、その部分の歩道の切れ目から車が入らないようにガードパイプなんかも、車どめポールですね、車どめポールなんかも設置していきたいと考えております。

歩行者安全を優先に考え、早期完成に向けて国土交通省と引き続き協議を進めてまいりたいと考えております。協議としましては、今週の金曜日になりますけれども、6月21日に国土交通省の交通対策課、仙台工事事務所交通対策課と打ち合わせを行う予定でおります。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） ありがとうございます。そこまで、6月21日に交通対策課とお話をするということなんで、本当に一日でも早くつけていただければ、そういう中で今回は考えとしては、あそこの45号の海岸通りを全区間やっていただく、お願いすると。

実は、この問題について、この間中央商店街の会長とも話しして、次の質問のこともあわせてちょっとあったんですよ。そういう中で、そうなんだ、私たちこいつ悩んでんだと。今まで悩んでいたと。そういう中でつけてもらったほうがいいのか、ところが最近の事故を見た場合、これは景観のことを言われてられなくなった。安心安全だ。それが何よりも優先すると、だからこれはいい機会だから言ってくれというようなことでありました。

そういう中でそういうことも含めて6月の21にもう早速行くということなんですけれども、そういうことを含めて、地元の人も含めて早急になるべく早く、いろんな意見もあると思います。できてから何だかんだっていうよりもやっぱり地元の意向が大切なんです。そういうことも含めながらなるべく急いで皆さんと協議をしていただきたいなど、こういうことを申し上げます。

それで、この間その会長と会ったとき、こういうことを言っていました。今まで、今言われたように道路、あそこに突っ込んでると。それも2回あったと。この間警察との協議会あったみたいですね。そういう話の中でホテルの社長さんたちも関係者も来たと。そういう中で2回今まであそこに、歩道に突っ込んでんだと。たまたま人身事故になんなかったからよかつたけどと、そういうことも含めながら、もし、もしこういうことが、事故があった場合、こ

れは大変な問題になると。特に外国人が巻き込まれた場合、外交の問題、日本は安全でないんでないかと、そういうことも外国の報道にもなっていくかもしれない。こういうふうになったら、海岸だけで言って大変皆さんには申しわけないんですけども、もう観光にとっては致命的な、そういうふうになる可能性があるんで、これもやっぱり速やかに進めていただきたいと、このようなことをおっしゃってましたんですけども、そういうことも含めながら、やっぱり地域の皆さんと協議しながらやっていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 前段いろいろなお話しありましたけれども、実は地域の方々と瑞巖寺の落慶法要終わってからガードパイプ等について、どうしようかということではいろんなご意見を賜ってきたというのが事実であります。さまざまな意見があつてまとまり切れてなかったというのが現状であります。ですから難しかったという表現になったんだろうというふうに思います。

ただ、昨今の事故等考えまして、これはまず担当課長のほうに、まず申し込みに行くように。全てを。それで向こうから図面が出てきた段階で、また皆様方にお集まりなっていて、こんなふうにつけたいと、いついつごろからの、いついつごろまでの工事だということ周知していきたいと、このように思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。そのように行っていただければ本当に商店街の人も、さらにあそこを利用する皆さんも一段と安心安全でないかなと、このように思いますので、ひとつお願いを申し上げたいと思います。

それから、あそこ新しく道路になってから信号機見ると防犯カメラつくようになったんですね。実際あの防犯カメラ、45号の海岸通りだけかもしれませんけれども、あそこ何台ぐらいついたかわかりますか。

○議長（阿部幸夫君） 千葉総務課長。

○総務課長（千葉繁雄君） 確認しましたところ、小石浜から左坂の45号の区間で6カ所あるんですが、ただこれは塩釜警察署とか松島交番とかにも確認をしたんですが、防犯カメラではなく道路交通の状況を確認する、今よくありますけれども、そういったカメラだということで、小石浜と左坂につきましてはライブカメラということで、私たちも河川国道事務所のホームページから見れるタイプになっております。以上です。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） 何か所なんですか。（「済みません。6カ所です」の声あり）6カ所ね。  
6カ所のうち2カ所がライブ、小石浜と左坂。

○議長（阿部幸夫君） 千葉総務課長。

○総務課長（千葉繁雄君） はい、そのとおりです。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） そういうことで事故なんか見ると、本当に私たちの情報は皆さんも一緒  
ですけれども、防犯カメラでは事故の検証するのに非常に役立ってますね。もう動かない証  
拠になりますから。

そういう中で、以前私質問しました安心安全のためには防犯カメラの設置が必要ではないの  
かなと、そういうことを言いました。そのときの答弁は、やっぱり気持ちはわかるんだけれ  
ども予算がかかると。そのときは、たしか不審者対策のためにもつけてくれという質問だっ  
たんですよ。そういう中で十分経費かかるのはわかっておりますけれども、そういうこと  
も含めて今回は事故なんですけれども、これから不審者対策、もうメールがどんどん入りま  
すよね。父兄に。どこどこでどういうふうになると。そういうことが対策も含めて今す  
ぐはできないかもしれないんですけれども、計画を立てながら何年でカメラを設置してい  
きたいというような方向性まで、今は答えられないかもしれないけれども、これ検討してい  
てもらいたいなということなんですけれども、これは町長かな、よろしく願い申し上げます。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 私間違ったら大変失礼なんだけれども、令和になってから何か知らない  
けど大きな事故が多いんですね。5月1日から。5月になってからなんです。だから何か気  
にして、きのうの地震については、津波については余りひどくなかったといえば語弊があ  
りますけれども、大きくならなくてよかったなとは思いますが、何かそういうものが続  
いてるのでちょっと嫌な気はしてると。

ただ、いろんなこれまで事故を起こしたニュース等見ますと、このごろの車につきましては  
ドライブレコーダーが大分ついてるようになってきてるということであるので、それで事  
故の検証が細かくできるようになって事故に対する処理が早くなってきてるというのがある  
のかなというふうに思います。

海岸通りの45号沿いに防犯カメラというのはなかなか、これについては犯罪的なものになる

んだらうと思いますけれども、それらについてどうなのかということであれば、これは今度は定点でいくと思いますので、そういったものについて、今町がすぐできるとは言いませんけれども、これからやっぱりインバウンドを含めて外国の方々も相当数ふえてくると思いますし、瑞巖寺の参道にしたって何にしたって危険な箇所といえ、もう全て危険な箇所になってくるかもしれませんので、そういった意味で松島町の観光エリアでそういったところにそういったものが必要なのかというのは、今後いろんな方々と検証はしていく必要はあると思います。

ただ、すぐに今取りつけるということはいきませんけれども、そういうお話し合いも、例えば瑞巖寺の方々とか、それからあそこでやってる観光ガイドの方々とか、あそこにうちの公衆トイレがありますからトイレの問題とか、そういったところでいろいろ今後考えていかななくてはならないのかなというふうに思っております。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） ありがとうございます。今後検討していただきたいと思います。

松島町のほうでは西行戻しの松とか石田沢とか、あとどんぐりとか公営の施設、それにはもう対応してますよね。そういうことでありますので、今度はやっぱり一般住民、そういう本当に安心安全も含めてこれからやっていただければありがたいと。すぐにできないのはわかりますから、それを今後なるべく早く結論を出して実行に移していただきたいということを申し上げたいと思います。

そして、この第1項目の最後なんですけれども、子供の出入り施設、それから子供の多い地区、子供飛び出し注意とかなんか、実はこれ環境防災のほうに松島の保育所、それから海岸のある地域、そういう地域住民の人にご要望がありまして、そういうことでご相談申し上げましたら本当に対応していただきました。

そういう中であそこ、松島の保育所というのは割とスピード出してくる人が結構いるんですね。それで死角があつてちょっと真っすぐなただけでも飛び出ししやすい状況にあるところにあつて見えないこともあるということで、またもう一つはとみに海岸地区で人口、人口って子供たち飛び出るのがカキ処理場、カキ処理場に行くところの曲がりカーブなんですけれども、小野寺さんというお家の、これは個人名という申しわけない。その前に3軒、4軒の家ができたんです。新しい。そこ全部子供いるんです。2人、3人って、ちょうどいいあんばいの小っちゃい、かわいらしい、言葉悪くて申しわけないです。本当にその子供たちがぴっと飛び出したら大変なことになる。それで20キロ規制だった。昔は。そういう標識も

あった。ところがそういうことも含めてお願いした結果、道路交通法ちょっと改正になって、それが20キロ規制取って、今まだついてないんですけれども、そういうことも含めながらお願いごとをされたんです。それで早速対応させていただいた。飛び出し注意、本当にありがたかったですよ。そういう地区は、この松島町でもやっぱりいろいろあると思うんです。昔、飛び出し注意って小っちゃな、こいなのがあったんですけれども、今回のやつは立派なんですね。大きくて結構目立つんですよ。そういう中も含めながら、やっぱり点検しながら、そういうところは積極的につけていってほしいなと、このように思いますけれども、そういう検証をしましたでしょうかね。あとご要望、ご要望とかそういう、ここ危ないなと、そういうものはいかがなんでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 千葉総務課長。

○総務課長（千葉繁雄君） 今申し上げられましたように児童公園の周辺ですとか、あとは見通しの悪い場所、それから保育所の散歩コースとか学校周辺などを担当のほうで回しまして、今色川議員さん言われた松島保育所ですとか香徳ヶ浦のほかにも磯崎保育所の前の県道のところもちょっと危ないというところで飛び出しの注意看板を設置していただいたところです。常日ごろ公務上いろいろ町内を回る機会が職員そのものが多いと思いますので、そうした機会を捉えて、しっかりその辺は確認してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。そういうことで地域住民の要望を即行動に移していただいたということは本当にありがたく思っております。今後ともよろしく、ほかの箇所も検証していただきたいなと思います。

これが最後で、この間ね、私車運転したら小学校、第一小学校で先生申しわけないんですけれども、これはどこの学校でも一緒だと思うんです。歩道を歩きます。歩道の車道側を歩くんですね。結構歩いてました。歩道の車道側。縁石の近く。これは危ないなあと私思いました。ちょっとクラクション鳴らして、ちょっとお兄ちゃん、もう少し奥に歩けと、このように、何だあのおやじと、こう思われたと思うんですけど、歩道がありますよね。車道側。この縁石の側を歩くんですよ。ですから内側、車通るところじゃなくて内側のほうを歩いてけると、そういうご指導もしていただければありがたいなということなんですけれども、よろしく取り計らい……。

○議長（阿部幸夫君） 内海教育長。

○教育長（内海俊行君） ご指摘ありがとうございました。私も気づかなかったところがございますので、もう一度歩き方、歩道の歩き方を確認したいと思います。保護者と子供が歩いているときには保護者がこっち側、車道側歩いて子供はこっちというふうになれば、あったなあということを思い出しましたので、あと校長会とかでお話しさせていただきます。

以上でございます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） よろしくお願ひ申し上げまして、1点目は終わりたいと思います。

では、第2点目入らせていただきます。「東日本大震災復興事業とJR松島海岸駅バリアフリー化の竣工を記念して町挙げての松島流灯花火大会・海の盆の開催を」というタイトルで質問させていただきたいと思います。

東日本大震災から8年4カ月経過し、復興事業、9年目ですね、先ほど町長言うように9年目になります。復興事業が進んでいる中、復興・創生期間も残り1年8カ月、9カ月と書いたんですけども8カ月になりました。あわせて、JR松島海岸駅バリアフリー化も、この7月より工事に入る予定で令和3年度完成を目指していると。この10年町民の、まあ8年4カ月ですけども、この8年余の間、町民の皆さんには大変なご苦労があったと思います。この間、10年に及ぶ国宝瑞巖寺、平成の大改修が終わり、昨年6月22日、間もなくですよ。思い出せばブルーインパルス、町長の努力によって、あのブルーインパルスが初めて飛んだと。それから武者行列、花火大会、24日には落慶法要が盛大にとり行われまして、たくさんの観光客をお迎えすることができました。私は、これらを含めて感謝の意味、おかげさまでした、おかげさまという気持ちを込めて復興した松島の新しい姿を内外に示す方策の一つが、この花火大会の復活ではないかと思いを込め、提案として今回の質問をするわけであります。

松島流灯花火大会は歴史があり、観光振興を図る意味を込めて観光客が多く見えるお盆に行うことになったのです。本当は以前はこの15日・16日では、15日ではなかったんです。その後だったんです。花火大会は。そういう中で伊藤政治町長時代だと思いますけれども、古い話です。せっかくやるんだったら一番多いお盆にやろうということで、この15日になったと私は記憶してます。そういう中で翌日はお施餓鬼だということに合わせてこれを行ったわけであります。しかし、東日本大震災後復興事業などの理由で、あとは工事で危ないということがあって花火大会は中止というふうになったのであります。

その後、若い力で海の盆を開催、今回で9回目を迎えることになった実行委員の皆様には、この努力には感謝しておりますが、町内外の皆様から皆さんもお聞き及びだと思えますけれ

ども、根強く花火大会を望む声が大変多く聞かれるということでもあります。私は復興事業後、このJR松島海岸駅バリアフリー化の竣工を記念して工事が終わった令和3年、この夏に向け、夏に向け今から検討して、そして町挙げての花火大会を復活してはどうかという思いで、この質問であります。

では、1番目なんですけれども、震災後ですね、海の盆を行っております。実際9回目になりますと最初の思いというのは、最初は燃え上がってうわーっとみんなやってたんですよ。ところが年月、9回たつとその思いも、まああるんですよ、思いはあるんですけれども、どうも私疲れぎみになってんでないかなと、そういう印象、実際実行委員の人からも聞くんです。そういう中でやっぱりこれを、海の盆というのは消すことができないわけですよ。ということは景観大賞をとってるわけです。これはいいイベントだよということになっておりますので、そういうことも含めながら、この花火大会を、先ほど言いました、何回も言いますけれども内外に松島の復興の現状、姿を見てください、そういうことで感謝を込めてこういう復活をしていただければなあと思いますけれども、町長のお気持ちはいかがでしょうか。

○議長（阿部幸夫君） 櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 我々も震災前の花火大会記憶しておりますけれども、確かに2日間行われていたということでもあります。当時の記録を見ますと2日間で15万4,000人という数字が出てますけれども、これはどういうふうにカウントしたのかにもよりますかもしれませんけれども、そういうデータが残っておりました。

昨年、瑞巖寺の落慶法要の慶祝お祝い行事で花火大会、花火を上げましたけれども大変天候に恵まれたというんですかね、それで中央広場等で花火を見ていた方々からは感銘の声が出ていたと。それで拍手も出てたということで物すごく盛り上がったなというふうに思っております。後でカウントした数字を聞きますと、落慶のときの花火大会については3万人というふうに聞いております。改めてこの花火大会の規模の大きさによって集客力が出てくるんだなというふうに思っております。瑞巖寺の花火大会以降も松島町ではやっぱり花火大会が必要でないのかということも多くの方々から言われておりますので、やっぱりこれは少し考えなくてはいけないだろうなというふうに思っております。

ただ、これをやるが上には観光に携わっている協会、旅館組合、それらに対しては、それ以外の観光事業者の方々、全ての方々のご意見を聞いて、なおかついろんなの方々からのご負担も願って、町だけではやれませんので、花火大会を盛り上げなくちゃならないと、このように思っております。何でもあるから職員がやるのかというふうになりますので、そうじゃな

くて全体でやるんだということを意識づけをもっていきたいというふうに思います。そういうことで考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） 大変町長には今前向きのご答弁をいただきました。本当にありがたく思っております。

次の質問に準備してただけけれども、松島 J R 海岸駅、町長、思い出せば、今これちょっと事務局のほうから借りて、私たち町長、議長、町長も私も同じ同期、最初の 1 期のときに、当時内田町長が出された長期総合計画、これですよ。相互乗り入れ駅、出したわけですよ。びっくりしましたよ、私は。こんなのできるのかと。すごい雄大な計画でした。そしてあれから 20 年です。本当に、まあ正確には 18 年なんですけど、あれから 20 年、この事業をするのに 20 年かかるわけ。本当に簡単に言うけれどもなかなか、私たち議員はこうしろあしろって言いますが、今までの努力、4 人かわったの、町長、内田町長、松谷町長、大橋町長、そして櫻井町長、その 4 代にやっここで完成、工事が始まるということですよ。その努力たるや本当に私は頭の下がる思いです。ここまでやってくるのは大変なことです。

そういう中で、それで 3 者協議も含まれたと。最初は折半だと。6 億、9 億のお金、これではできないということ、そこから始まって、そして震災があったために国と、そして県も入っていただいて松島の負担が 6 分の 1 になったと。9 億から 3 億 7,000 万、物すごい努力ですよ。ここまで来た努力というのは、やっぱり議員皆さんも高く評価しなきゃならない。もちろん職員の頑張りもそう。そういうことでいろんな質疑はありました。それは皆さん松島町を思う気持ちで言ってるわけだから、その辺は誤解しないでください。そういう中で皆さん今までの取り組みはみんな評価してるから。そういうことでよろしくお願い、その感謝、20 年の、この悲願、それを何とかあらわさなきゃない。

私は過去に何回か言いました。お願いする言葉だけではだめだと。お願いしたら、そのお願い先が喜ぶこともしなきゃだめだと。J R がそこまでやった。一日 3,000 人の乗降客がないのに日本三景松島、震災だ、宮城県の顔だと、そういうことのトータル的なものを含めて特別な計らいでこれをやった、その感謝をあらわさなきゃない。だったら花火じゃないか。J R 使うんですよ。J R を使う。そしてお客さん、車もいいけど J R を利用してください。私この間話したと思います。皆さん職員、今度もし花火大会あったら花火大会終わった後の姿見てください。松島海岸駅、J R の職員何人来ますか。びっくりしますよ。総出であそこを、総出っていったらおかしいですけど、歩く順路を全部つくって、そこをじくじぐに歩いて、



そこに全部JRの職員を張りつけて、一大イベントなんですよ。松島の花火大会は。だからそういう感謝を込めてJRさんありがとう、そういうイベントを打っていかなきゃないんですよ。それが今回私の提言の一つなんですね。そういうことで、今町長から今後検討していくということでもあります。

私、先日中央商店街の会長と会ったと言いました。このことに含めてもどうだべと言ったっけ、いいなあ。この感謝という言葉がいいなと。何か褒められてちょっとこそばかったんだけれども、めったにあいづ褒めない。あっあいづってことない。褒めないんですけれども、そういう中でこの感謝、そして、俺も晴夫っていうんですけれども、晴夫や、こういうイベントは原点に戻らないとだめだ。原点に戻ってやっぺや。俺たちサポートする。何ぼでもやっぺからやと。

そういう中で原点とは何か、みんな力を、今町長言うように力を合わせてやっぺということなんです。彼はかき祭りの発案者です。今の私も一緒に私の義理の兄貴も飲食分もやりました。本当に松島の観光を何とかすっぺと。何もない冬にやっぺ。かき祭りを。発案者ですよ。亡くなった町長と、松谷町長と、そういう人たちの力を合わせて今のかき祭りがあるんです。それが今利益誘導型になってきてしまってる。その感がある。それじゃだめなんです。やっぱり皆さんにいかに楽しんでいただくか、そして松島の姿を見てもらって、また松島に来てくださいと、そういう思いがやっぱりここにあらわれてくるのではないのかなと、こういう思いを込めまして、私は本当に町長の今回の言葉ですね、もうこれ以上何も言うことなくなりました。

そういうことで、どうかみんなで力を合わせて、だからなるべく早く協議会を、町長の今の気持ちを皆さんに訴えかけてほしい。それで協議会を、いろんな分野分野に話しかけて、やっぱり協議会を立ち上げていってほしい。

で、財源どうすんだということになります。では財源、次にいきます。もうちょっと飛びますから、次に財源へいきます。

いろんな財源の問題がありますよ。出し方は。金がないというのはわかります。常々町長はおっしゃっておりますので、いろんな私が今ちょっと、浅学非才な私でさえこのぐらい出てくるんですけれどもクラウドファンディング、一ころ、まあ今も大分やっておりますけれども、このクラウドファンディングというのは一つの事業に対してインターネット上で公募するわけでしょう。そして4つあると。クラウドファンディングは4つの方法があると。

そういう中で、1つは購入型、寄附型、融資型、投資型とこういうことがあると。私、こう

いう花火になるのはやっぱり購入型と寄附型、この2つがこの花火には適合するんでないのかなと、こういう思いを込めて提言するわけですけども、購入型というのは、あるプロジェクトに対して支援者、ファンですね、町内・町外の人がお金を出し合って、お金を出して支援する、そういう仕組み、これが購入型。お金を出すことにより利用者が商品とかグッズ、サービスをかわりに得ることができる、何かふるさと納税みたいな一つの方法。

もう一つは寄附型というのがありまして、これはリターン、そういうものを求めないと。商品とかなにかの寄附するだけで見返りはないよと。

その2つが松島町には適合するんではないのかなということ、これをクラウドファンディング、ネット上で公開し、募集したとき目標を決めるわけですよ。仮に500万、1,000万とか、震災前、ある、ちょっと長くなってごめんなさい。神戸の大学、神戸大学の工学、今でも忘れないんです。あの震災の復興、あの状況を見て何とか松島を助けたいと、工学部の生徒が、学生が。で、クラウドファンディングしませんかと、今だったら何ぼでもありますよと。そういう提言があったんです。花火大会をしたいんだけどと言ったら、ああできますよと、今だったらできるよというような、そういう応援者もいたんですけど、それはそれとして工事云々かんぬんありましたから、それはだめになりましたけど、こういうクラウドファンディングによる寄附、そういうものがありますけどいかがでしょうかね。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員に、ここで休憩を入れたいと思いますが、質問はもう終わりますか。（「いいから続けっから」の声あり）では、続行します。

櫻井町長。

○町長（櫻井公一君） 花火大会するに当たって事業費に対しての財源の方策を提案していただきましたけれども、どれも有効な方策ではないかなというふうに思っております。実際に提案いただいた方策で財源を調達し、花火大会を行っている事例もありますので、検討して考えていきたいというふうに思います。

ちなみに、ちょっと参考資料をちょっと調べさせていただきましたら、平成22年度の花火大会の総額が2,565万5,103円というふうに聞いております。このときは町のほうで500万負担、補助金を出してるということでありましたけれども、ただこのときと今では何が違うのかというと、仮に同じ規模でやっても2日間でやったから2分の1でしょうけれども、1日であれば。警備費用が物すごくかかるようになってきてると。これは花火大会、明石の事故があって以来ですね、どんどんどんどんこういう警備に関するものに関しての費用が高額になってきてるといふことでもありますから、打ち上げ花火の花火の費用よりも、もしかすると警備

のほうがかかるといふふうになってくるんだろうといふふうに思います。

今後、まあよく花火は何千発だという話をされますけれども、昨年の瑞巖寺の落慶法要のときの花火大会は、あれは4,000発といふふうになっております。4,000発といふふう聞いておりますので、約時間にして小一時間だったと思いますけれども、最低でもあのぐらいのものはやっぱりやらないとだめなんだろうと、それでなおかつ1回だけじゃなく、それがずっと今度継続しなくちゃならないといふふうに思っていますので、そういったことで松島の花火大会がまた風物詩として復活するにはどうしたらいいのかということまで含めて考えて物事をやっていきたいといふふうに思います。

それから、議員が先ほどから感謝という言葉もありますけれども、以前90周年で、松島町90周年で何かやらないのかと言われたときに、一応復興事業が全て終わってから考えたいという答弁したかと思っておりますので、それらについても、こういったものが松島町の環境整備を全て駅も含めて終わった段階で、これが令和3年だから令和3年の夏になるかどうかちょっと今精査してませんけれども、そういうときにそういうものができればいいかなといふふうには思っております。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員。

○13番（色川晴夫君） はい、ありがとうございます。

そういうこともあるということ、それから次に書いたふるさと納税、これもいろんな返礼ということがありますけれども、ちょっと提案したいんですよ。こういうことでこのふるさと納税でやられたことは、当然今ホテルをやってますね。プラス・この趣旨に賛同していただいた方は特別棧敷席とか特別席を設けるとか、それから次、翌日は松島町内の施設、そのオールフリーパス券、クーポン券を出すんですよ。今JTBさんでやっています。すごく安くてびっくりします。そのオールフリー、瑞巖寺さん、船に乗るのも全てこの中に入る。それは金額ですよ。寄附された金額によりますよ。それから食事も全部クーポンにつくんです。それで利用したところにそのクーポン券を切るんです。そうするとそのクーポン利用して食事食べたところが、その半券を今度換金すればいいんです。そういうシステムを考えながら、そういう特典も与えていって寄附をより多く賛同していただいた方に出していただければありがたいなど。いろんな方策があります。

それから、町内外からの寄附金、私たち、私、以前の観光協会の理事やってきました。今じゃなくて昔ですよ。そのとき観光協会の理事、もちろん全部歩いたんです。あんだはここ、町内担当。あなたは塩釜、あなたは仙台、全部ボランティア、食事も出せないんだから、本当

ですよ。昔はみんなそうだった。ただ、今それはできない。ですから交通費と食事ぐらいは出しながら、実行委員会のほうで、そしてそういうことをみんなでやると。みんなのお祭りにしていくと。そういうことをやっぱり考えていていただきたい。それからいろんなこと、それもそういう設立準備委員会とかなんとかという協議会をつくりながら、その中でいろんなことをもんでください。それがあと3年、2年少しありますから、ないようで、あるようではありませんから、そういうことでひとつよろしくお願いを申し上げまして休憩、皆さんの休憩挟んで済みませんです。もっと申し上げたいこといっぱいありますけど、町長の前向きの答弁をいただきましたので、これで終わります。ありがとうございました。

○議長（阿部幸夫君） 色川晴夫議員の一般質問が終わりました。

以上で、通告いただいた一般質問が終わりました。

---

---

### 日程第3 委員会の閉会中の継続審査・調査について

○議長（阿部幸夫君） 日程第3、委員会の閉会中の継続審査・調査についてを議題といたします。

各委員長からお手元に配付しました一覧表のとおり、閉会中の継続審査・調査の申し出があります。

申し出がありました審査・調査件名を事務局長より朗読させます。局長。

○議会事務局長（千葉義行君） それでは、委員会の閉会中の継続審査・調査申し出一覧表に従い、朗読いたします。委員会名、継続審査等の内容、審査等の期限の順に申し上げます。

広報広聴常任委員会。議会広報紙の編集、発行及び配布。議会における情報通信技術の活用。議会報告会及び一般会議の開催に必要な企画及び調整。広報及び広聴の活動により明らかになった政策課題の整理。期限は令和元年9月定例会。

続いて議会運営委員会です。次回の議会開会に伴う議会運営についての審査。議長の諮問事項及び議会活性化に伴う調査研究。令和元年9月定例会。

以上であります。

○議長（阿部幸夫君） お諮りします。各委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査・調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（阿部幸夫君） 異議なしと認めます。よって、各委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査・調査とすることに決定をいたしました。

本定例会に付議された議案の審議は全部終了いたしました。

令和元年第2回松島町議会定例会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後3時12分 閉 会